

第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」
令和6年度点検・評価報告書(正式版)

令和7年9月

千葉県 環境生活部 スポーツ・文化局
生涯スポーツ振興課

目 次

はじめに 本報告書の趣旨について	1
1・第13次計画指標の達成状況 進捗管理表	2
2・第13次「千葉県・スポーツ推進計画」指標 令和6年度時点 目標達成率	3
3 基本指標の達成度・実績の推移について	
(A-1)～(A-6)	5～9
(B)	10～11
(C-1)～(C-2)	12～13
(D-1)～(D-7)	14～16
(E-1)～(E-2)	17
(F-1)～(F-3)	18～20
4 各施策に係る具体的な取組の進捗について	
リンク A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上	23
リンク B 人生を豊かにするスポーツの推進	27
リンク C 誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進	29
リンク D スポーツ環境の整備・充実	31
リンク E 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進	35
リンク F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり	41

はじめに 本報告書の趣旨

<趣旨>

本報告書は、第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」に掲げた目標の達成に向けて、計画期間（令和4年度～令和8年度）に実施する重点的な取組について主な施策の実施状況を示すことにより、実効性を高めながら、計画的な事業推進に反映させていくものです。

各施策の実施状況については、今後、県民の運動・スポーツに関するアンケート調査の結果や、千葉県スポーツ推進審議会委員からの御意見を踏まえて、毎年度点検・評価を行い、取組内容等の見直しを図ります。

<点検評価の対象>

点検・評価の対象は、第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」に掲げられた6つのリンクを実行するため、重点的な取組に位置づけて実施した主な施策・事業を対象としました。

<点検評価の方法>

第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」には、施策ごとに指標（目標項目）が掲げられています。施策ごとの指標（目標項目）の中には、「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の内容を盛り込み、その指標の達成状況を参考としながら、施策・事業等の実績を明らかにするとともに、課題を分析し、今後の取組について対応を検討します。

<備考>

「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」（令和7年度は9月～10月実施）

本調査は計画の実現に向け、県民のスポーツニーズを継続的に調査し、計画の進捗状況を把握するとともに、今後の事業推進に伴う基礎資料を得るために、各地域（教育事務所管内）の県民（成人）及び児童生徒を対象に実施するものです。

児童生徒について各校で実施したアンケート結果を集計することで指標とします。アンケートに回答いただく母集団の実態（成人や児童生徒・障害者の方々の総数・内訳）は年度ごとに変化していきますが、可能な限り多くの県民（成人及び児童生徒）に回答をいただくことで、調査結果の信頼性確保に努めます。

1 第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」基本指標 進捗管理表

関連リンク	関連施策	基本指標		進捗					目標値
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上	1 幼児期における運動遊びの充実	休日の運動遊び実施率	幼児	44.9 %	46.7 %	57.7 %	59.8 %	0.0 %	65.0 %
	2 学校体育活動の充実	体育の授業が楽しいと感じる割合	小学5年	88.7 %	85.5 %	84.1 %	83.2 %	0.0 %	95.0 %
			中学2年	85.9 %	83.4 %	80.4 %	82.8 %	0.0 %	90.0 %
	3 児童生徒の体力の向上	新体力テスト平均点	小学生	47.3 点	47.3 点	47.0 点	47.1 点	0.0 点	50.0 点
			中学生	45.1 点	45.0 点	45.1 点	45.6 点	0.0 点	50.0 点
			高校生	51.8 点	51.1 点	50.8 点	50.7 点	0.0 点	55.0 点
	4 スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実	運動部活動満足度	中学校	78.6 %	68.2 %	78.9 %	78.9 %	0.0 %	80.0 %
			高等学校	71.1 %	69.0 %	78.4 %	84.8 %	0.0 %	75.0 %
	5 心身の健全な発達に向けた食育の推進	担任と栄養教諭・学校栄養士がTTで授業を実施した割合		(R2) 52.1 %	60.8 %	63.4 %	64.9 %	0.0 %	80.0 %
		朝食を食べない割合	小学5年	3.1 %	2.2 %	3.7 %	2.8 %	0.0 %	0.0 %
中学2年	5.1 %		3.2 %	4.8 %	4.7 %	0.0 %	0.0 %		
B 人生を豊かにするスポーツの推進	1 ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	週1回程度のスポーツ実施率	全体	62.5 %	56.7 %	53.7 %	53.9 %	0.0 %	70.0 %
			18～39歳	64.0 %	52.9 %	49.0 %	52.3 %	0.0 %	70.0 %
			40～59歳	58.1 %	51.9 %	48.0 %	48.5 %	0.0 %	65.0 %
	2 多様化するスポーツライフの充実・発展		60歳～	81.4 %	77.5 %	74.4 %	74.3 %	0.0 %	経年増加 %
C 誰もがとにも楽しめるパラスポーツの推進	1 パラスポーツの推進	パラスポーツの観戦・体験率	成人	44.9 %	55.1 %	47.4 %	51.1 %	0.0 %	50.0 %
	2 パラアスリートへの強化・支援の推進	パラリンピック競技日本代表者数		45 人	33 人	40 人	44 人	0 人	50 人
D スポーツ環境の整備・充実	1 人材の育成	公認スポーツ指導者数		920 人	902 人	886 人	875 人	0 人	1,000 人
		障害者スポーツ指導者数		814 人	890 人	915 人	947 人	0 人	経年増加 人
	2 施設の整備と有効活用	県立学校体育施設開放事業登録団体数		254 団体	267 団体	279 団体	340 団体	0 団体	経年増加 団体
		体育施設年間利用者数		656,979 人	858,958 人	872,653 人	893,033 人	0 人	1,600,000 人
	3 誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	総合型地域スポーツクラブ認知度		16.0 %	16.7 %	16.1 %	14.9 %	0.0 %	20.0 %
		総合型地域スポーツクラブ数		86 団体	88 団体	90 団体	91 団体	0 団体	100 団体
		総合型地域スポーツクラブ会員数		20,844 人	18,955 人	19,440 人	18,371 人	0 人	24,500 人
E 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進	国体(国スポ)入賞		(R1) 7 位	7 位	8 位	9 位	0 位	入賞 位	
	トップ・アスリートの派遣回数		(R1) 19 回	32 回	58 回	85 回	0 回	累計 95 回	
F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり	1 アスリートと連携したスポーツの価値の推進	トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合		54.0 %	54.0 %	64.0 %	66.0 %	0.0 %	100.0 %
	2 地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信	スポーツ情報への関心度(県HPのヒット回数)		2,180,000 回	1,960,000 回	2,070,000 回	2,350,000 回	0 回	経年増加 回
	3 オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	競技団体等と連携した学校訪問数		12 校	21 校	40 校	60 校	0 校	累計 100 校

累計は、4年度から8年度までの数値の合計である。

2 第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」基本指標 目標達成率

基本指標			計画 策定時	実績値(a)	実績値(b)	実績値(b)	前年比 (b/a×100)	目標値	目標達成率
			3年度					(c)	(b/c×100)
			4年度	5年度	6年度		8年度		
A-1	休日の運動遊び実施率	幼児	44.9 %	46.7 %	57.7 %	59.8 %	103.6 %	65 %	92.0 %
A-2	体育の授業が楽しいと感じる割合	小学5年	88.7 %	85.5 %	84.1 %	83.2 %	98.9 %	95 %	87.6 %
		中学2年	85.9 %	83.4 %	80.4 %	82.8 %	103.0 %	90 %	92.0 %
A-3	新体力テスト平均点	小学生	47.3 点	47.3 点	47.0 点	47.1 点	100.2 %	50 点	94.2 %
		中学生	45.1 点	45.0 点	45.1 点	45.6 点	101.1 %	50 点	91.2 %
		高校生	51.8 点	51.1 点	50.8 点	50.7 点	99.8 %	55 点	92.2 %
A-4	運動部活動満足度	中学校	78.6 %	68.2 %	78.9 %	78.9 %	100.0 %	80 %	98.6 %
		高等学校	71.1 %	69.0 %	78.4 %	84.8 %	108.2 %	75 %	113.1 %
A-5	担任と栄養教諭・学校栄養士がTTで授業を実施した割合	(R2)	52.1 %	60.8 %	63.4 %	64.9 %	102.4 %	80 %	81.1 %
A-6	朝食を食べない割合	小学5年	3.1 %	2.2 %	3.7 %	2.8 %	75.7 %	0 %	97.2 %
		中学2年	5.1 %	3.2 %	4.8 %	4.7 %	97.9 %	0 %	95.3 %
B	週1回程度のスポーツ実施率	全体	62.5 %	56.7 %	53.7 %	53.9 %	100.4 %	70 %	77.0 %
		18～39歳	64.0 %	52.9 %	49.0 %	52.3 %	106.7 %	70 %	74.7 %
		40～59歳	58.1 %	51.9 %	48.0 %	48.5 %	101.0 %	65 %	74.6 %
		60歳～	81.4 %	77.5 %	74.4 %	74.3 %	99.9 %	経年増加 %	R8評価 %
C-1	パラスポーツの観戦・体験率	成人	44.9 %	55.1 %	47.4 %	51.1 %	107.8 %	50 %	102.2 %
C-2	パラリンピック競技日本代表者数		45 人	33 人	40 人	44 人	110.0 %	50 人	88.0 %
D-1	公認スポーツ指導者数		920 人	902 人	886 人	875 人	98.8 %	1,000 人	87.5 %
D-2	障害者スポーツ指導者数		814 人	890 人	922 人	947 人	102.7 %	経年増加 人	R8評価 %
D-3	県立学校体育施設開放事業登録団体数		254 団体	267 団体	279 団体	340 団体	121.9 %	経年増加 団体	R8評価 %
D-4	体育施設年間利用者数		656,979 人	858,958 人	872,653 人	893,033 人	102.3 %	1,600,000 人	55.8 %
D-5	総合型地域スポーツクラブ認知度		16.0 %	16.7 %	16.1 %	14.9 %	92.5 %	20 %	74.5 %
D-6	総合型地域スポーツクラブ数		86 団体	88 団体	90 団体	91 団体	101.1 %	100 団体	91.0 %
D-7	総合型地域スポーツクラブ会員数		20,844 人	18,955 人	19,440 人	18,371 人	94.5 %	24,500 人	75.0 %
E-1	国体(国スポ)入賞		(R1) 7 位	7 位	8 位	9 位	／ %	入賞 位	R8評価 %
E-2	トップ・アスリートの派遣回数		(R1) 19 回	32 回	58 回	85 回	146.6 %	累計 95 回	89.5 %
F-1	トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合		54.0 %	54.0 %	64.0 %	66.0 %	103.1 %	100 %	66.0 %
F-2	スポーツ情報への関心度(県HPのヒット回数)		2,180,000 回	1,960,000 回	2,070,000 回	2,350,000 回	113.5 %	経年増加 回	R8評価 %
F-3	競技団体等と連携した学校訪問数		12 校	21 校	40 校	60 校	／ %	累計100 校	60.0 %

各リンク指標達成状況一覧

達成率	100%	99～90%	89～60%	59～30%	29～0%	未評価
A(11指標)	1	8	2	0	0	0
B(4指標)	0	0	3	0	0	1
C(2指標)	1	0	1	0	0	0
D(7指標)	0	1	1	1	0	4
E(2指標)	0	0	1	0	0	1
F(3指標)	0	0	2	0	0	1
計(29指標)	2	9	10	1	0	7

3 基本指標の達成度・実績の推移について

基本指標について

基本指標	(A-1) 休日の運動遊び実施率
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	1 幼児期における運動遊びの充実
施策の目標・方向性	楽しく体を動かす遊びを通して、運動習慣の基盤を作り、運動能力の基礎を培います。 ア 保護者への啓発及び情報提供 イ 指導者（保育者）への研修

基本指標の達成度について

昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a × 100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c × 100)
5 年度	6 年度		8 年度	
57.7	59.8	104%	65.0	92%

< 県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より >

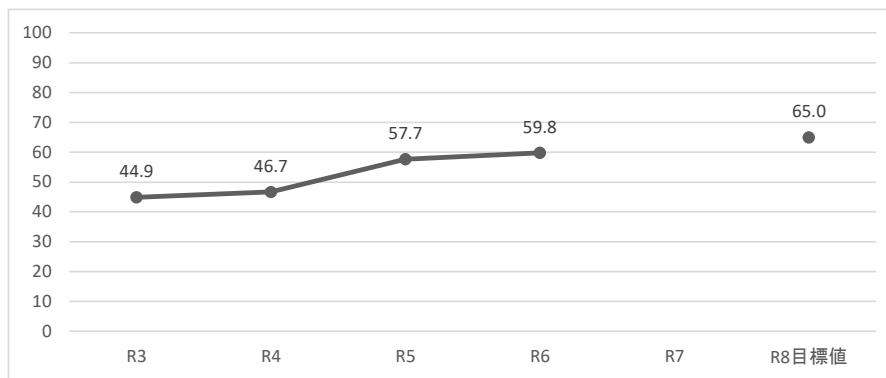
設問：休日にお子様の運動遊びやスポーツをする時間はどのくらいですか。

回答：1 時間以上 59.8%（「1～2 時間以内」36.2%、「2～3 時間以内」15.6%、「3 時間以上」8.0%）

1 時間未満 37.8%（「全くしない」5.6%、「30 分以内」9.2%、「30 分～1 時間以内」23.0%）

※無回答等により、合計が100%にならない場合がある（以下、同じ）

実績の推移（令和3年度～令和8年度）



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8 目標値
休日の運動遊び実施率	44.9	46.7	57.7	59.8		65.0

総括

指導者（保育者）の理解や資質・能力の向上を図るための研修を実施し、「幼児期運動指針」を活用した運動遊び及び活動の実施方法や園における運動習慣の基盤づくりが推進されるよう継続した指導をしている。加えて、今年度から「幼保小の架け橋プログラム研修」として、園と小学校の先生が幼保小の接続を意識した指導を学ぶ新たな研修を実施した。

また、幼児教育の質向上及び幼保小接続の円滑化を図るため、総合教育センターに幼児教育アドバイザーを8名配置し、研修会講師及び園への指導・助言等の業務に携わり、県内の市町村の幼稚園・保育所・認定こども園を通じて、運動遊びの楽しさ（スポーツの価値）、運動遊びを通じた思いやりの心（効果）、遊び方・楽しみ方（方法）等を指導者（保育者）に伝えた。

さらに、保護者への啓発・情報発信として、家庭教育リーフレット（幼児版）に体を動かすことの重要性や基本的な運動の仕方を身に付ける大切な時期であることを明記して、幼児をもつ保護者に配付するとともに、「親力アップ！いきいき子育て広場」のホームページに市町村ごとの地域情報を適宜更新することで、県民へ運動遊びができる施設・講座の情報を周知するなど、スポーツの効果（子供の成長にとって、楽しく体を動かすことの大切さを伝える）について、様々な情報発信を行った。

基本指標は、令和5年度より2.1ポイントの上昇となった。研修及び幼児教育アドバイザー派遣等を継続していることが、実施率の増加につながっていると考えられる。

引き続き、研修の実施とともに、市町村教育委員会と連携して幼保小の接続を促進していく中で、指導者（保育者）の理解や資質・能力の向上を図っていく。

基本指標について

基本指標	(A-2) 体育の授業が楽しいと感じる割合
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	2 学校体育活動の充実
施策の目標・方向性	教科体育・体育的活動の指導力の向上及び、個々の発達段階を踏まえた支援の充実と指導内容の明確化を図ります。 ア 体育の授業改善と指導者の指導力向上 イ トップ・プロスポーツの活用 ウ パラスポーツを通じた学校間交流 エ 個々の発達段階に応じた支援の充実と指導内容の明確化

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	5 年度	6 年度		8 年度	
小学 5 年	84.1	83.2	98.9%	95.0	87.6%
中学 2 年	80.4	82.8	103.0%	90.0	92.0%

< 県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より >

設問：あなたは「体育の授業」が楽しいと感じますか。

回答：【小学 5 年】

楽しいと感じる 83.2%（「とても楽しいと感じる」58.3%、「少し楽しいと感じる」24.8%）

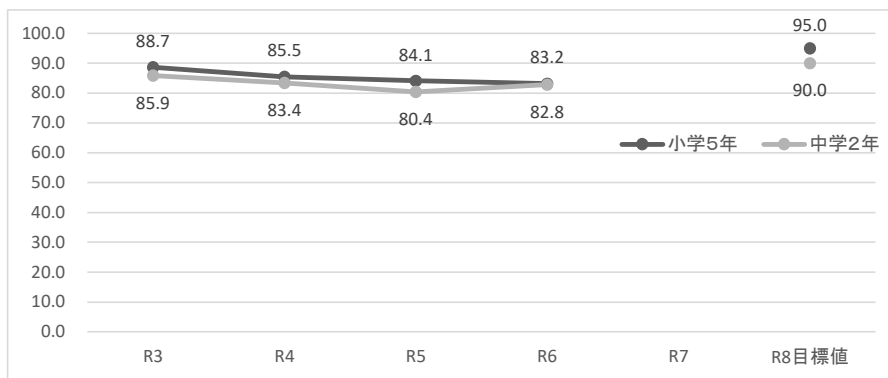
楽しいと感じない 10.1%（「あまり楽しいと感じない」8.0%、「全く楽しいと感じない」2.1%）

【中学 2 年】

楽しいと感じる 82.8%（「とても楽しいと感じる」44.1%、「少し楽しいと感じる」38.7%）

楽しいと感じない 10.4%（「あまり楽しいと感じない」7.9%、「全く楽しいと感じない」2.5%）

実績の推移（令和 3 年度～令和 8 年度）



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8 目標値
小学 5 年	88.7	85.5	84.1	83.2		95.0
中学 2 年	85.9	83.4	80.4	82.8		90.0

総括

体育授業における指導の質的改善とその充実に資することを目的とした研究大会を 11 月 8 日に印西市文化ホール等で開催し、県内各地から 589 名の学校体育関係者が参加した。

また、トップ・プロスポーツ団体と連携し、令和 6 年度は選手・コーチ等を県内の小・中・特別支援学校 20 校に派遣し、スポーツ教室や講演会等を実施した。

県立特別支援学校と近隣の小・中学校等とのパラスポーツを通じた交流においては、令和 6 年度は互いに訪問するなどし、15 校にて実施した。両事業とも、スポーツの価値（スポーツの楽しさ）、効果（チームプレーの大切さ）、行い方（競技のルールや楽しみ方）を伝えることに寄与した。

基本指標は令和 5 年度より、小学 5 年生については、0.9 ポイント減少し、中学 2 年生については、2.4 ポイント増加した。体育・保健体育の授業においては、児童生徒が楽しさや喜びを味わえるような工夫が求められるとともに、各種の運動を適切に行うことにより、その結果として児童生徒の体力の向上を図ることができるようにすることが重要である。

引き続き、授業の工夫・改善や指導力向上に取り組んでいくとともに、トップ・プロスポーツ団体やアスリートによる学校訪問やパラスポーツを通じた交流及び共同学習を推進し、運動への動機づけ、意欲向上を図っていく。

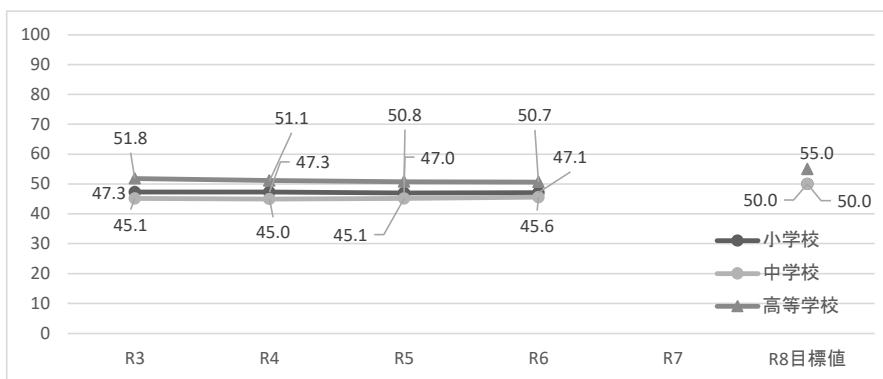
基本指標について

基本指標	(A-3) 新体力テスト平均点
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	3 児童生徒の体力の向上
施策の目標・方向性	児童生徒の体力の向上に努めるとともに、運動の習慣化を推進します。 ア 体育の授業改善、教師の指導力向上 イ 児童生徒に対する体力向上の啓発 ウ 運動の日常化

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	5 年度	6 年度		8 年度	
小学校	47.0	47.1	100.2%	50.0	94.2%
中学校	45.1	45.6	101.1%	50.0	91.2%
高等学校	50.8	50.7	99.8%	55.0	92.2%

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (点)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
小学校	47.3	47.3	47.0	47.1		50.0
中学校	45.1	45.0	45.1	45.6		50.0
高等学校	51.8	51.1	50.8	50.7		55.0

総括

児童生徒の体力の向上を目指して、全8種目の新体力テスト実施し、総合評価A段階の児童生徒に対する運動能力証の交付や、「遊・友スポーツランキングちば」を前・後期にかけて実施するなど、各事業に取り組み、仲間と楽しみながら集団で協力して運動に取り組む楽しさや喜びを味わいながらスポーツの持つ価値に触れ、記録(ランキング)を公表することによる、活動の意欲化と継続化に寄与した。

千葉県体力・運動能力調査の結果、基本指標は令和5年度と比較して小学校・高等学校はほぼ横ばい、中学校は微増であり、体力の向上傾向は見られていない。背景には「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、運動する子としない子の二極化が進んでいることが考えられる。

今後は、児童生徒の体力向上に向けて、体育授業の改善と授業以外の時間での運動機会の創出により、運動の習慣化に取り組んでいく。体育授業の改善については、成功体験や達成感を味わわせ、運動やスポーツの楽しさや喜びを感じ、児童生徒が主体的に運動に取り組む態度を育成していく。

体育以外の時間での運動機会を設定については、県の事業の1つである、児童生徒が仲間と協力し合いながら運動に取り組む「遊・友スポーツランキングちば」への積極的な参加を奨励し、継続的な運動習慣の構築を図る。

基本指標について

基本指標	(A-4) 運動部活動満足度
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	4 スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討
施策の目標・方向性	生徒の興味関心・ニーズに応じた活動及び、地域と連携した部活動の推進を図ります。 ア 地域部活動への段階的な移行 イ 外部指導者の派遣 ウ 講習会等の充実 エ 運動部活動中の事故防止の徹底

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	5 年度	6 年度		8 年度	
中学校	78.9	78.9	100.0%	80.0	98.6%
高等学校	78.4	84.8	108.2%	75.0	113.1%

＜県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より＞

設問：あなたは、現在加入している運動部活動や地域のスポーツクラブに満足していますか。

回答：【中学校】

満足している 78.9%（「とても満足している」52.9%、「少し満足している」26.0%）

満足していない 12.0%（「あまり満足していない」9.4%、「全く満足していない」2.5%）

どちらともいえない 8.0%

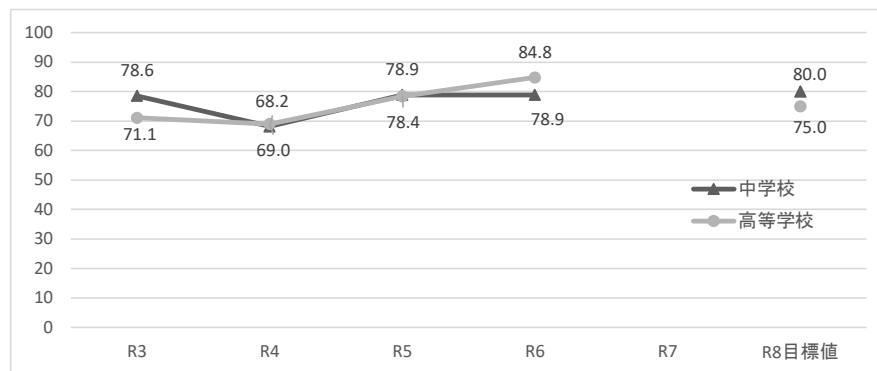
【高等学校】

満足している 84.8%（「とても満足している」53.7%、「少し満足している」31.1%）

満足していない 5.4%（「あまり満足していない」3.7%、「全く満足していない」1.7%）

どちらともいえない 8.4%

実績の推移(令和3年度～令和8年度)



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
中学校	78.6	68.2	78.9	78.9		80.0
高等学校	71.1	69.0	78.4	84.8		75.0

総括

公立中学校における休日の地域クラブ活動への段階的な移行については、全ての市町村担当者に対して5月と11月に説明会を実施し、地域スポーツクラブ活動の運営団体との連携の在り方、費用負担の在り方、課題等について共有した。外部指導者の派遣については、県立学校44校に49名の外部指導者を派遣したり、公立中学校へ部活動指導員を125名配置したりして、運動部活動の充実に向けた取組を進めた。また、安全に部活動運営を行うために、講習会において、スポーツ傷害の予防や応急処置についての講義と、応急処置などの実技を実施した。

今年度の基本指標によると満足度について、中学校では昨年度と同数値で、高等学校においては約6ポイントの増加が見られた。コロナ禍での制限がなくなり、活動できるようになっていることに満足感を感じていると考えられる。

今後は、各学校において、ガイドラインや活動方針に則っているか実態把握に努めながら、適切な活動に取り組むよう指導助言していく。地域展開等については、生徒・保護者、教職員、地域の方々に丁寧な説明や情報提供を行い、地域の実情にあわせて、地域と連携しながら取組を進めるよう支援していく。

引き続き、地域クラブ活動での指導者の確保には人材バンクを活用することや、指導力の向上につながる講習会を実施していく。また、生徒のより良いスポーツ環境を整えるために、公立中学校への部活動指導員配置や県立学校への外部指導者派遣の拡充を図っていく。

基本指標について

基本指標	(A-5) 担任と栄養教諭・学校栄養士がTTで授業を実施した割合 (A-6) 朝食を食べない割合
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	5 心身の健全な発達を支える食育の推進
施策の目標・方向性	発達段階に応じた食育を推進します。 ア 食に関する指導のあり方についての研修・研究協議 イ 地域と連携した学校給食・食育活動支援 ウ 食育の啓発と情報提供

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100) ※A-6:100-b
	5年度	6年度		8年度	
(A-5)	63.4	64.9	102.4%	80.0	81.1%
(A-6) 小学5年	3.7	2.8	75.7%	0	97.2%
(A-6) 中学2年	4.8	4.7	97.9%	0	95.3%

<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より>

設問：あなたは普段、朝ごはんを食べますか。(A-6)

回答：【小学5年】

食べる 97.0% (「毎日食べる」81.7%、「食べる日の方が多い」11.7%、
「食べない日の方が多い」3.6%)

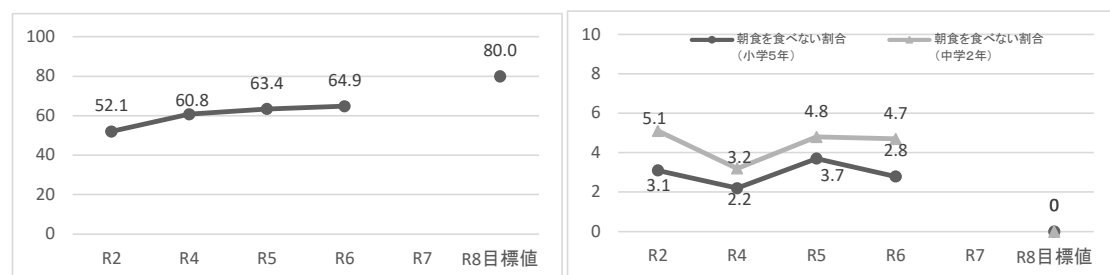
ほとんど食べない 2.8%

【中学2年】

食べる 95.1% (「毎日食べる」79.4%、「食べる日の方が多い」12.0%、
「食べない日の方が多い」3.6%)

ほとんど食べない 4.7%

実績の推移(令和3年度～令和8年度)【左：授業実施割合／右：朝食を食べない割合】



実績 (%)	R2	R4	R5	R6	R7	R8目標値
授業実施割合	52.1	60.8	63.4	64.9		80.0

実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
朝食を食べない割合 (小学5年)	3.1	2.2	3.7	2.8		0
朝食を食べない割合 (中学2年)	5.1	3.2	4.8	4.7		0

総括

食育の推進のために、栄養教諭等に対して各経験年数に応じた悉皆研修を実施し、指導力向上を目指した。また、「地域における食育指導推進事業」では、推進委員によるTTの授業公開や研究協議会を開催し、栄養教諭等が参観や協議会に参加し、研鑽を深めることができた。「食に関する指導事業」では、保健体育課から5つの教育事務所管内の学校給食関係者を集め、食に関する指導の在り方や進め方等について説明を行った。

A-5の基本指標については、令和2年から増加傾向となっている。研修会で栄養教諭等の職務や指導の在り方等を丁寧に説明したことで意識が高まっている成果である。今後も継続して研修や協議会等を開催し、目標値に近づけていく。

A-6の基本指標については、令和6年度から令和5年度にかけて、小学5年は0.9ポイント減少し、中学2年では0.1ポイント減少した。朝食欠食については、家庭に起因しているところが多いが、児童生徒へ栄養や食事のとり方等に関する正しい理解を深め、望ましい食生活をコントロールしていく力を育めるよう、家庭との連携を積極的に行っていく必要がある。千葉県から発行している食育指導資料などを周知し、食育指導の推進を図っていきたい。

基本指標について

基本指標	(B) 週 1 回程度のスポーツ実施率
関連リンク	B 人生を豊かにするスポーツの推進
関連施策	1 ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進 2 多様化するスポーツライフの充実・発展
施策の目標・方向性	1 新しい生活様式でのライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進を図るとともに、高齢者の健康づくり及び介護予防を推進します。 2 日常的に多様なスポーツに親しみ、スポーツ習慣の定着と健康の増進を図ります。 ア 働き盛り・子育て世帯のスポーツの更なる推進 イ 総合型地域スポーツクラブに対する支援 ウ シニア・スポーツの推進 ア 健康ちば21の推進に係る各種啓発事業 イ 情報共有システムの構築と情報発信

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	5 年度	6 年度		8 年度	
全体	53.7	53.9	100.4%	70.0	77.0%
18～39歳	49.0	52.3	106.7%	70.0	74.7%
40～59歳	48.0	48.5	101.0%	65.0	74.6%
60歳～	74.4	74.3	99.9%	経年増加	R8評価予定

<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より>

設問：この1年間に運動やスポーツ（軽い体操やウォーキング等を含む）をどの程度行いましたか。

回答：

【全体】週1回程度 53.9%（「週に3回以上」25.5%、「週に2回」14.1%、「週に1回」14.3%）

週1回以下 45.7%（「月に1～3回程度」12.3%、「3か月に1～2回」6.3%、「年に1～3回」5.4%、「まったくしなかった」21.7%）

【18～39歳】週1回程度 52.3%（「週に3回以上」24.2%、「週に2回」12.8%、「週に1回」15.3%）

週1回以下 47.3%（「月に1～3回程度」12.9%、「3か月に1～2回」6.9%、「年に1～3回」5.7%、「まったくしなかった」21.8%）

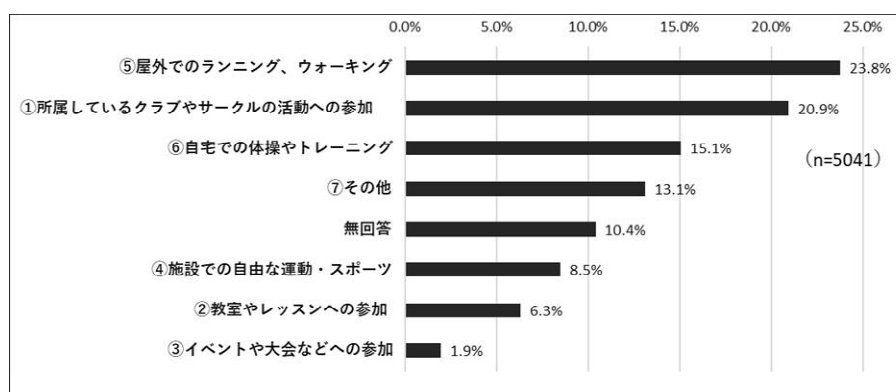
【40～59歳】週1回程度 48.5%（「週に3回以上」21.9%、「週に2回」13.0%、「週に1回」13.5%）

週1回以下 51.2%（「月に1～3回程度」13.0%、「3か月に1～2回」6.9%、「年に1～3回」6.0%、「まったくしなかった」25.3%）

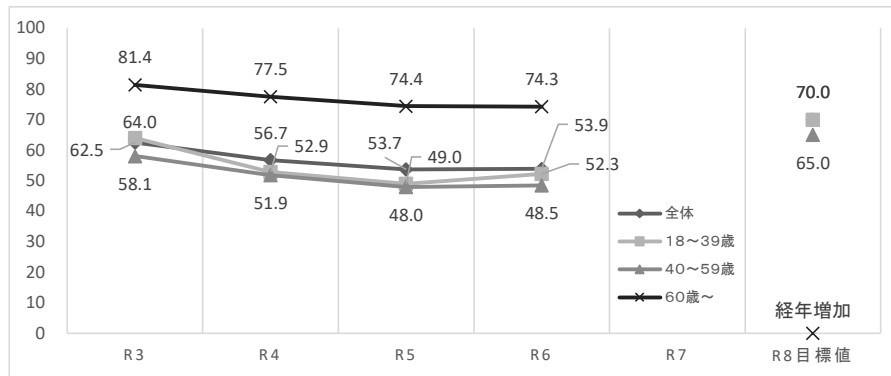
【60歳～】週1回程度 74.3%（「週に3回以上」38.6%、「週に2回」19.8%、「週に1回」16.0%）

週1回以下 25.4%（「月に1～3回程度」9.2%、「3か月に1～2回」2.9%、「年に1～3回」2.9%、「まったくしなかった」10.3%）

設問：主に運動・スポーツをどのように実施しましたか。（一つだけ）



実績の推移（令和３年度～令和８年度）



実績（％）	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
全体	62.5	56.7	53.7	53.9		70.0
18～39歳	64.0	52.9	49.0	52.3		70.0
40～59歳	58.1	51.9	48.0	48.5		65.0
60歳～	81.4	77.5	74.4	74.3		経年増加

総括

１０月を「スポーツ推進月間」とし、関係団体と連携して、親子を対象とした体験講習会やスポーツ教室等を開催した。

また、鳥取県で開かれた「ねんりんピック」に本県選手１４３名を派遣してシニアスポーツの推進を行うとともに、健康増進計画「健康ちば２１（第３次）」において、働く世代を中心に運動習慣者の割合が低下している課題があるなか、「個人の生活習慣の改善と生活機能の維持向上」を目指す目的で千葉県内在勤・在住の運動指導者向けに「健康・体力づくり指導者研修会」を開催することに加え、仕事の合間でも身体を動かす意識付けとして「Work+10」リーフレットを作成し、各市町村や保健所へ計20,640部配布した。加えて、県民だよりや千葉県ホームページ、SNSなどを活用し、スポーツや健康増進に関する情報発信に努めたことにより、スポーツの価値（あらゆる世代の人たちがスポーツを楽しむ）、効果（高齢者の健康づくり及び介護予防）の推進に寄与した。

基本指標となる成年の週１回程度のスポーツ実施率は５３．９％であり、令和５年度より０．２ポイントの増加とほぼ横ばいとなった。令和３年度より減少傾向が続いているが、この減少については、新型コロナウイルス感染症の蔓延時に限定的に形成された運動との関わりが、元に戻りつつあることが要因だと考えられる。

令和７年度は、運動・スポーツ習慣の定着と健康の増進に向けたリーフレットを配付し、県民が日常生活の中で無理なくできる運動例を、働き盛り世代、子育て世代向けに伝えていく。

基本指標について

基本指標	(C-1) パラスポーツの観戦・体験
関連リンク	C 誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進
関連施策	1 パラスポーツの推進
施策の目標・方向性	パラスポーツを通じた共生社会へ向けての環境づくりを推進します。 ア 共生社会に向けたアプローチの推進 イ パラスポーツ参画人口の拡大 ウ 障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進

基本指標の達成度について

昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
5 年度	6 年度		8 年度	
47.4	51.1	107.8%	50.0	102.2%

＜県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より＞

設問：あなたは、これまで過去一度でもパラスポーツを体験したことがありますか。

回答：体験したことがある 17.5% 体験したことがない 79.4%

設問：あなたは、これまで過去一度でもパラスポーツを観戦したことがありますか。

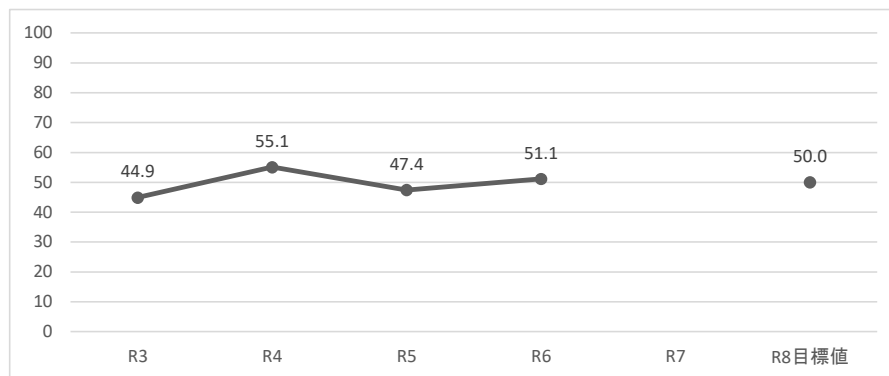
回答：観戦したことがある 44.8%

（「実際に観戦したことがある」4.5%、「TV、ネット中継等で観戦したことがある」40.2%、

「生でも、テレビ・ネット等でも観戦したことがある」0.1%）

観戦したことがない 50.6%

実績の推移(令和3年度～令和8年度)



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
パラスポーツの観戦・体験率	44.9	55.1	47.4	51.1		50.0

総括

県内の小中学校計17校、特別支援学校計13校において「パラアスリート等学校訪問事業」を実施し、2,129名（1月末現在）の児童・生徒が参加した。体験競技として、車いすバスケットボール、車いすラグビー、ボッチャ等の7競技からいずれかを実施した。特別支援学校では、地域の方とともに実施し、77名（1月末現在）の地域の方が参加した。今後もパラスポーツを通じた障害の理解促進につなげていく。

また、8月に千葉ポートアリーナで「パラスポーツフェスタちば」（14競技・473名参加）、12月に我孫子市民体育館で「パラスポーツフェスタとうかつ」（7競技・234名参加）を開催し、県民がパラスポーツを体験する機会を創出し、スポーツの価値（スポーツをする楽しさ）、効果（障害のある人と障害の無い人が一緒に競技を行うことで思いやりの精神を学ぶ）、行い方（パラスポーツの行い方）を伝えることができた。さらに今年度から、障害のある方が身近な地域でパラスポーツを体験できるよう、特別支援学校4校でパラスポーツ教室を開催しており、来年度は6校に拡充して実施予定。

基本指標となるパラスポーツの観戦・体験率は令和5年度と比べ、3.7ポイント増加した。観戦・体験率のさらなる増加に向けて、学校訪問やイベント等の事業を通じてパラスポーツに触れる機会を創出していくことが重要と考える。

今後も、パラスポーツ普及・啓発用の映像及びリーフレットの配布やパラスポーツフェスタをはじめとする体験会の広報等、様々な情報発信を行い、県民のパラスポーツに対する理解を深めるとともに、障害のある方が身近な地域でスポーツに取り組めるよう、パラスポーツコーディネーターの派遣により、市町村におけるパラスポーツ教室の開催や相談窓口の設置等を促進していく。

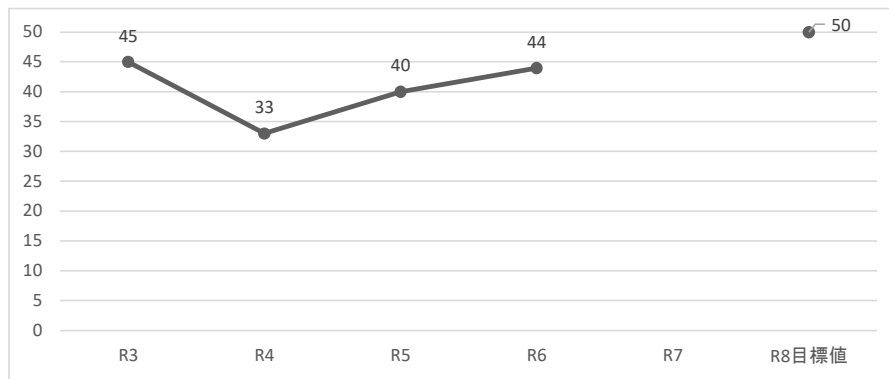
基本指標について

基本指標	(C-2) パラリンピック競技日本代表者数
関連リンク	C 誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進
関連施策	2 パラアスリートへの強化・支援の推進
施策の目標・方向性	パラアスリートの発掘・育成及び環境整備、競技力向上への支援に努めます。 ア パラ競技組織の体制整備の推進及びパラスポーツ選手の掘り起こしと育成 イ パラアスリートの競技力強化の推進

基本指標の達成度について

昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a × 100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c × 100)
5 年度	6 年度		8 年度	
40	44	110.0%	50	88.0%

実績の推移（令和3年度～令和8年度）



実績（人）	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
パラリンピック競技 日本代表者数	45	33	40	44		50

総括

千葉県ゆかりのパラアスリート等を指定し、継続的な競技力の向上を目指し、パラリンピック出場に向けた強化活動に対する取組へ助成を行うとともに、パラスポーツの振興、普及啓発活動のため障がい者スポーツ協会と連携し、支援体制の強化や有望選手の掘り起こしを行った。また、競技人口の増加を目的として、県内計19団体の障害者スポーツ競技団体が行う体験会に対する費用助成を行い、スポーツの行い方（体験会を通してパラスポーツのルールや技術を知る）に寄与した。

基本指標としては、千葉県競技力向上推進本部事業において強化指定した選手のうち、パラリンピック競技の中央競技団体（NF）強化指定選手数を実績値としているが、令和5年度から4名増加している。令和3年は東京パラリンピックが開催された年で、その数値は、今年度とほぼ同等の数値となっていて、トップレベルのパラアスリート数は維持できている。

また、2024年のパリパラリンピック大会では、本県ゆかりの選手は22名が大会に参加し、メダル獲得者は11名に及んでいる。これは、本県のパラアスリートへの支援が継続して行われ、多くの選手達の競技力の向上が現れていることが要因の一つと考えられる。次期ロサンゼルス大会においても、より多くのパラアスリートが活躍できるよう、引き続き、強化合宿や国内遠征、海外遠征等の支援体制の充実を図る。

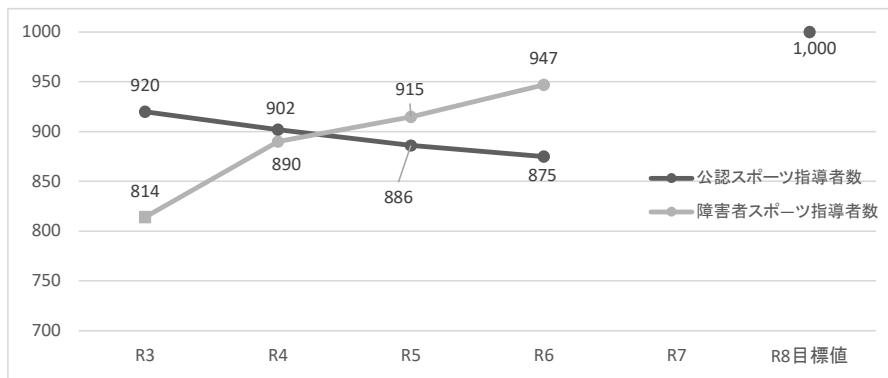
基本指標について

基本指標	(D-1) 公認スポーツ指導者数 (D-2) 障害者スポーツ指導者数
関連リンク	D スポーツ環境の整備・充実
関連施策	1 人材の育成
施策の目標・方向性	スポーツ指導者の養成と指導力の向上、指導者の有効活用を推進します。 ア スポーツ指導者の養成・資質の向上 イ 表彰制度の活用

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a × 100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c × 100)
	5 年度	6 年度		8 年度	
公認スポーツ指導者数	886	875	98.8%	1,000	87.5%
障害者スポーツ指導者数	915	947	103.5%	経年増加	R8評価予定

実績の推移（令和3年度～令和8年度）



実績（人）	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
公認スポーツ指導者数	920	902	886	875		1,000
障害者スポーツ指導者数	814	890	915	947		経年増加

総括

地域のスポーツ指導者を養成するため、日本スポーツ協会公認資格であるスポーツコーチングリーダーの養成講習を実施した。また、初級障害者スポーツ指導者養成講習会(R5、初級パラスポーツ指導者養成講習会に名称変更)を2回実施し、パラスポーツ指導者計60名を養成し、D-2の基本指標である障害者スポーツ指導者数は、947人となった。指導者を通じて、スポーツの価値（パラスポーツの楽しさ）、効果（スポーツを通じた思いやりや連帯感）、行い方（ルールや技術）を伝えた。

指導者・選手の功績をたたえ、更なる活躍につながるよう、「体育・スポーツ功労者等顕彰」において、県功労者15名、優良団体12団体、優秀スポーツ選手個人145名・20団体、特別功労賞4名を顕彰した。そのうちパラスポーツ部門では、個人35名、団体1団体を顕彰した。

第4回世界弓道大会において、優勝を果たした千葉県にゆかりのある日本代表チームの選手1名に対し7月5日に千葉県知事賞を授与した。

また、千葉県にゆかりのある、パリオリンピック・パラリンピックで活躍した18名に対し千葉県民栄誉賞等を授与した。表彰を通じて、広く一般の方に向けてスポーツの価値を発信した。

令和7年度も更なる指導者確保・指導者の質の向上を目指し、講習の受講者数を増やしていきけるようホームページ等を通じて情報発信に取り組んでいく。

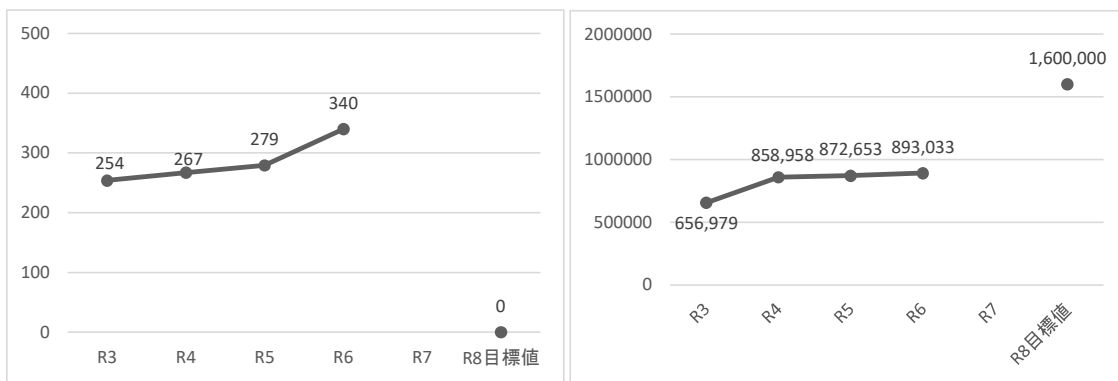
基本指標について

基本指標	(D-3) 県立学校体育施設開放事業登録団体数 (D-4) 体育施設年間利用者数
関連リンク	D スポーツ環境の整備・充実
関連施策	2 施設の整備と有効活用
施策の目標・方向性	耐震化・バリアフリー化の推進と老朽化施設の再整備・機能向上を図り、安全安心にスポーツができる環境を提供するとともに、県立学校体育施設の有効活用を推進します。 ア 施設・設備の整備と有効活用

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	5 年度	6 年度		8 年度	
登録団体数	279	340	121.9%	経年増加	R8評価予定
年間利用者数	872,653	893,033	102.3%	1,600,000	55.8%

実績の推移（令和3年度～令和8年度）【左：登録団体数／右：年間利用者数】



実績	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
県立学校体育施設開放事業登録団体数	254	267	279	340		経年増加
体育施設年間利用者数(人)	656,979	858,958	872,653	893,033		1,600,000

総括

D-3の基本指標である県立学校体育施設開放事業登録団体数は、令和3年度から令和6年度まで増加傾向にある。

県立学校体育施設開放事業は、広くスポーツの健全な普及・発展を図ることを目的に、昭和47年から継続して実施しており、スポーツ活動を通じて地域住民の交流を生むコミュニティの場として大きな役割を担っている。今後も教育活動に支障のない範囲で県立学校体育施設の有効活用を展開していく。

総合スポーツセンター庭球場クラブハウスの整備は、令和6年3月に建替工事が完了し、それに伴うテニスコートの復旧工事が令和7年3月に完了した。

現在、利用を休止している体育館は、本県の競技力向上の拠点となるスポーツ施設として令和10年度中の供用開始に向け整備を進めており、基本設計及び実施設計を終え、令和6年10月から解体工事に着手している。

D-4の基本指標である体育施設年間利用者数について、令和5年度は、総合スポーツセンターで第2陸上競技場改修工事に伴い、施設の利用を制限していたことや、国際総合水泳場では熱中症予防のためトレーニングルームの利用を制限していたことから、令和6年度は令和5年度の同時期と比べ体育施設年間利用者数は増加した。

総合スポーツセンター476,909人、総合スポーツセンター射撃場3,019人、総合スポーツセンター東総運動場76,990人、国際総合水泳場336,115人となった。

基本指標について

基本指標	(D-5) 総合型地域スポーツクラブ認知度 (D-6) 総合型地域スポーツクラブ数 (D-7) 総合型地域スポーツクラブ会員数
関連リンク	D スポーツ環境の整備・充実
関連施策	3 誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展
施策の目標・方向性	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展を図ります。 ア 総合型地域スポーツクラブに対する支援 イ 情報共有と発信の推進 ウ 体育・スポーツ関係団体との連携・協同

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a × 100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c × 100)
	5 年度	6 年度		8 年度	
認知度	16.1	14.9	92.5%	20	74.5%
クラブ数	90	91	101.1%	100	91.0%
クラブ会員数	19,440	18,371	94.5%	24,500	75.0%

＜県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より＞

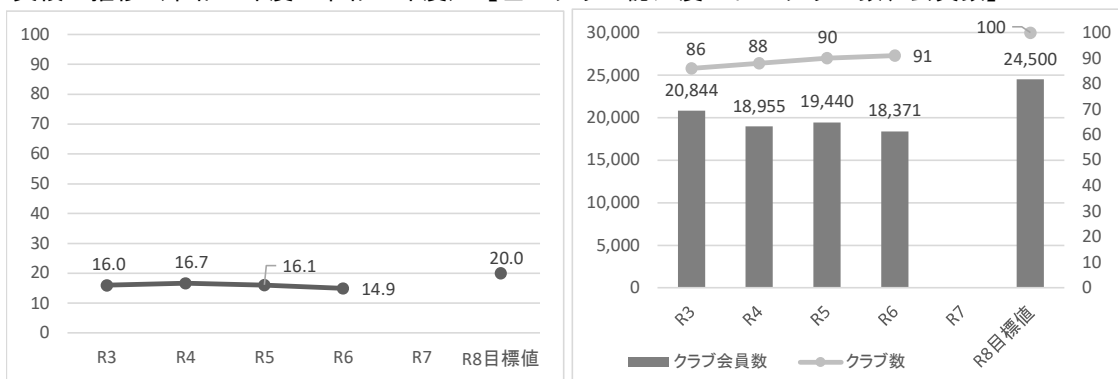
設問：あなたは「総合型地域スポーツクラブ」について知っていますか。

回答：知っている **14.9%**

（「クラブに所属している」1.4%、「知っている」5.3%、「少し知っている」8.3%）

知らない 81.7%

実績の推移（令和3年度～令和8年度）【左：クラブ認知度／右：クラブ数、会員数】



実績	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
総合型地域スポーツクラブ認知度 (%)	16.0	16.7	16.1	14.9		20.0
総合型地域スポーツクラブ数	86	88	90	91		100
総合型地域スポーツクラブ会員数(人)	20,844	18,955	19,440	18,371		24,500

総括

総合型地域スポーツクラブの設立に向けて、市町村担当者研修会において、未設置の市町村に対し協力を依頼するとともに、新たに立ち上げを考えているクラブにはクラブアドバイザーや市町村生涯スポーツ担当課等と連携し、助言等を行った。

また、既存のクラブに対しては、学識経験者や専門知識を持つ指導者の紹介や、クラブ運営の中心となるクラブマネージャーの養成、県スポーツ関係団体等との情報交換会の実施など、総合型クラブの活性化に向けた支援を行った。

基本指標については、認知度は令和5年度と比べて1.2ポイント減少した。クラブ数は我孫子市・市原市で新設されたことに伴い2件増加、1件が廃止となり、全体としては増加した。なお、クラブ会員数については、減少傾向が見られる。

令和7年度は、運動・スポーツ習慣の定着と健康の増進に向けたリーフレットを配付し、県民が日常生活の中で無理なくできる運動例を、働き盛り世代、子育て世代向けに伝えていく。

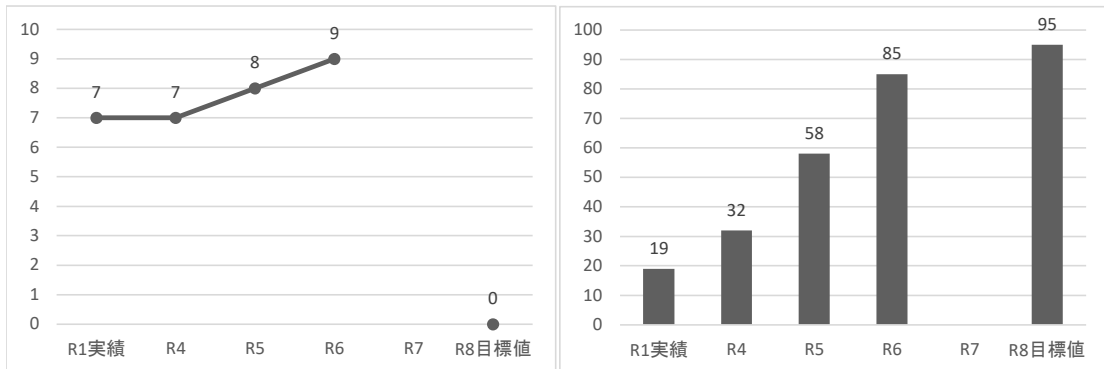
基本指標について

基本指標	(E-1) 国体（国スポ）入賞 (E-2) トップ・アスリートの派遣回数
関連リンク	E 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進
関連施策	1 選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上 5 競技スポーツの充実及び好循環 等
施策の目標・方向性	個々の選手及びチームの競技力向上を推進します。 各競技会の充実と競技人口の拡大を図るとともに、トップアスリート等の能力活用を推進します。 等 1-ア 国民スポーツ大会入賞に向けた選手強化 1-イ 未来のアスリートの発掘・育成・強化 5-イ トップアスリート等活用事業 等

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	5年度	6年度		8年度	
国体（国スポ）入賞	8	9	146.6%	入賞	R8評価予定
トップ・アスリートの派遣回数	58	85		(累計) 95	89.5%

実績の推移（令和3年度～令和8年度）【左：国体（国スポ）入賞／右：トップ・アスリートの派遣回数】



新型コロナウイルス感染症の影響により、R2、R3実績なし

実績	R1実績	R4	R5	R6	R7	R8目標値
国体（国スポ）入賞（順位）	7	7	8	9		入賞
トップ・アスリートの派遣回数（回）	19	32	58	85		(累計) 95

R4: 32回 R5: 26回 R6: 27回

総括

県の競技力向上を図り、国民スポーツ大会において男女総合成績入賞、女子総合成績入賞を目指し、本県国スポ代表チーム・選手の強化事業を実施した。また、競技力向上と地域スポーツの好循環を創出するため、トップアスリート等活用事業により、オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会（国民スポーツ大会）等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより、選手強化事業の成果を地域スポーツに還元する取組を実施した。

E-1の基本指標である国スポ入賞について、第78回国民スポーツ大会「SAGA2024国スポ」では、男女総合成績（天皇杯得点）において獲得点1426.5点で第9位となり、惜しくも8大会連続となる入賞はならなかった。女子総合成績（皇后杯得点）では、獲得点806.5点で2年連続の入賞となる第7位の成績を収めた。

E-2の基本指標であるトップ・アスリートの派遣回数について、派遣回数27回、延べ48名の講師を派遣し、派遣回数は令和5年度実績とほぼ同数となる。オリンピック・パラリンピック開催年度ということもあり、多く学校から要望があった。今年度も小中学校での実施が多く、児童・生徒は、講演会や特別授業等を通じたトップアスリートとの交流にとても喜び、スポーツの行い方（ルール・トップアスリートの有する高い技術）を知ることができ、教職員からの評価も高く充実した事業となった。令和4年度からの累計派遣回数も85回となった。

国民体育大会から名称が変更され、転機となった今年度の国民スポーツ大会では、残念ながら成績を残すことができなかった。しかしながら、課題と捉えていた成年種別は例年以上の活躍を見せてくれており、本県の競技力向上の取り組みが、一定の成果を残せていると考えている。次年度も、男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）で連続入賞を果たせるよう、本県競技力の向上を図るとともに、県内トップアスリート等のスポーツ資源の還元に取り組んでいく。

また、クリーンでフェアなスポーツの推進と、スポーツ・インテグリティの推進・促進のため、国民スポーツ大会出場選手・監督を対象とした、アンチ・ドーピング研修・講習会等を継続して実施した。

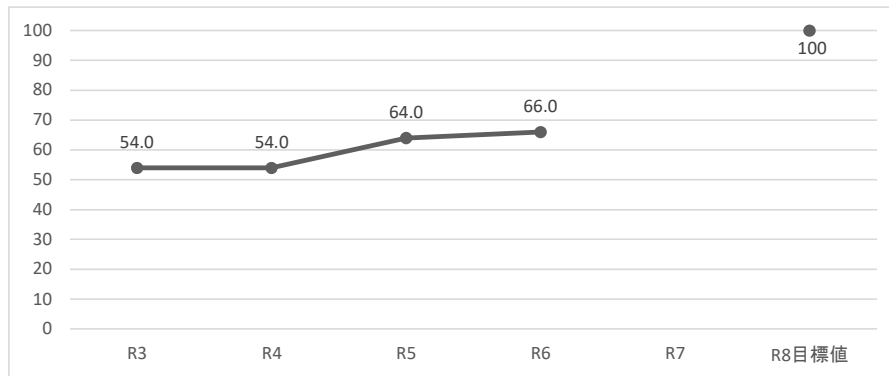
基本指標について

基本指標	(F-1) トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合
関連リンク	F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり
関連施策	1 アスリートと連携したスポーツの価値の推進
施策の目標・方向性	知るから広がる「する・みる・ささえる」スポーツの更なる推進を図ります。 ア トップ・プロスポーツ活用連携事業 イ トップ・プロスポーツ連絡協議会

基本指標の達成度について

昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
5 年度	6 年度		8 年度	
64.0	66.0	103.1%	100.0	66.0%

実績の推移（令和3年度～令和8年度）



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合	54.0	54.0	64.0	66.0		100

総括

トップ・プロスポーツチームと連携し、県内在学の児童・生徒を公式戦へ招待する「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」を実施し、計116,100名を招待した。また、選手やコーチを県内小・中・特別支援学校へ派遣する「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業では、10チームが20校を訪問した。

トップ・プロスポーツチームと連携することで、スポーツの価値（スポーツの楽しさや喜び）、効果（思いやりやフェアプレイ精神）、行い方（バレーボールやラグビーなど様々な競技のルールや見方）を児童生徒へ伝えることができた。

基本指標であるトップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合は、ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業では、令和4年度まで横ばいであったが、令和5年度は新たに5市町増加し、10ポイント増となった。なお、令和6年度は新たに1市増加している。「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」の参加人数は令和4年度が66,400名、令和5年度が127,500名、令和6年度が116,100名で、「ちば夢チャレンジかなえ隊」の参加人数は令和4年度が986名、令和5年度が1,201名、令和6年度が1,816名で、かなえ隊については増加している。

トップアスリートと直に触れ合える貴重な機会であるため事業への参加希望が多く、ニーズの高さが伺えるため、今後も実施地域を広げてスポーツの普及振興に繋げていく。

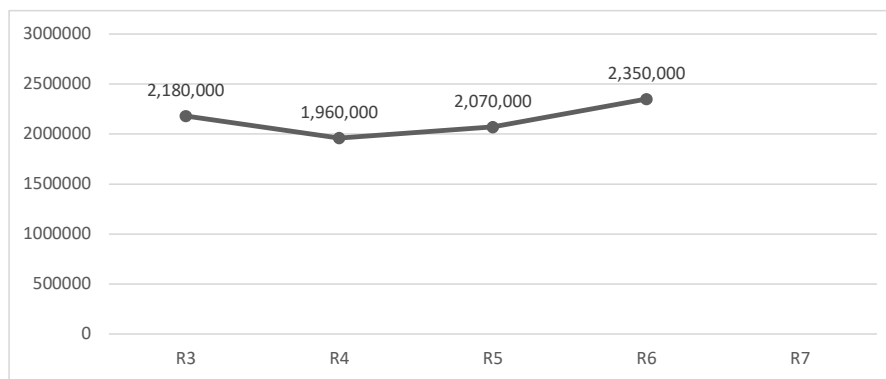
基本指標について

基本指標	(F-2) スポーツ情報への関心度 (県HPのヒット回数)
関連リンク	F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり
関連施策	2 地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信
施策の目標・方向性	地域資源を活用したスポーツの振興とともに、健康づくりや体力向上の機運の醸成と、ライフステージに応じた運動習慣の定着を図ります。 ア 交流機会の創出 イ 積極的な関わりの促進

基本指標の達成度について

昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
5年度	6年度		8年度	
2,070,000	2,350,000	113.5%	経年増加	R8評価予定

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (回)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
県HPのヒット回数	2,180,000	1,960,000	2,070,000	2,350,000		経年増加

総括

11月10日開催した「ちばアクアラインマラソン2024」では、約1万7千人のランナーが沿道に駆け付けた27万人の声援を受け、海と空に囲まれた大パノラマの中を笑顔で駆け抜けた。今大会では、車いすの方や親子などを対象としたファンランや東京湾アクアラインだけを走る特別プランなど、誰もがスポーツに親しめる取組を拡大した。また、大会へは地元自治会、企業、学生等から約4,400人のボランティアが参加し、スポーツボランティア活動を推進することができた。

基本指標は県ホームページにおけるスポーツ情報のアクセス数であるが、パリ2024オリンピック・パラリンピックやアクアラインマラソンの開催等によりスポーツへの関心が高まり、昨年度と比べ約13.5%増加している。更に今年度は、SNSでの情報発信に加え、年間を通じて、県民だよりにてアクアラインマラソン、パリ2024オリンピック・パラリンピックやサーフィン体験会、アーバンスポーツやパラスポーツ等の多くのスポーツ情報を掲載し、より多くの県民へスポーツの魅力を発信できたものと考えられる。

令和7年度についても、情報発信を多方面で展開していくことで、スポーツ情報への関心度を高めていく。

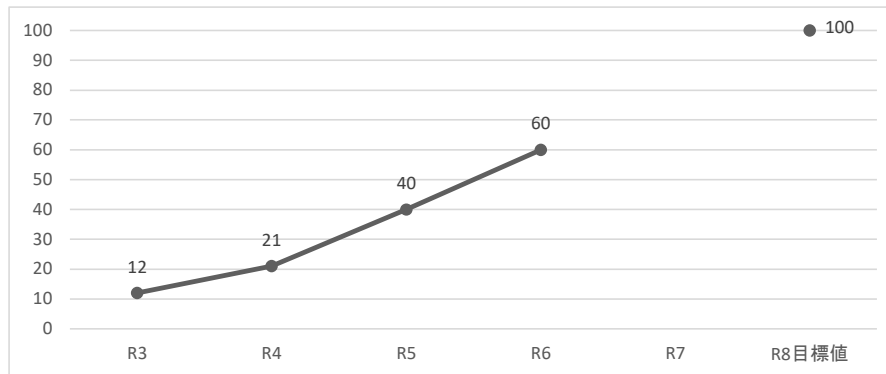
基本指標について

基本指標	(F-3) 競技団体等と連携した学校訪問数
関連リンク	F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり
関連施策	3 オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展
施策の目標・方向性	オリンピック・パラリンピックの無形のレガシーを継承するとともに、オリンピック・パラリンピックのレガシーを有効活用した地域の活性化を推進します。 ア オリンピック・パラリンピック教育の継承 イ 競技団体等との学校における連携事業 ウ ホストタウン相手国等との国際理解・国際交流の促進 エ マリンスポーツを活用した地域の魅力向上 オ 「新たなスポーツ」の周知・研究

基本指標の達成度について

昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a × 100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c × 100)
5 年度	6 年度		8 年度	
40	60	150.0%	(累計) 100	60.0%

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (校数)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
競技団体等と連携した学校訪問数 (累計)	12	21	40	60		(累計) 100

総括

オリンピック・パラリンピックのレガシーを有効活用し、心のバリアフリー教育推進事業、パラスポーツ推進事業、外房サーフィン振興事業、アーバンスポーツ等の「新たなスポーツ」の普及促進事業等、様々な事業に取り組んだ。また、今年度は、神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会に向けたオランダ・パラ陸上競技選手団の事前キャンプの受け入れを行い、千葉県総合スポーツセンター主催で毎年開催されている児童向けの「かけっこ教室」において、県民とオランダ選手団の交流事業を実施し、国際理解・国際交流の促進を図った。

基本指標である競技団体と連携した学校訪問数であるが、今年度は競技団体（フェンシング、サーフィン）及び日本オリンピック委員会（JOC）と連携し、県内公立小中学校計20校において学校訪問を実施した。アスリートを講師として招き、体験談を聞いたり、実際に競技を体験することを通じて、児童生徒からは「初めてサーフィンをしたが、またやってみたいのでお家の人に話してみたい」や「フェンシング選手のデモンストレーションマッチを見て、選手のすごさを実感した」、教師からは「水泳学習等が苦手の児童も無理なくサーフィンに親しめる内容だった」や「初めてフェンシングを体験するので最初はとまどっていたが、簡単な動きから教えていただき楽しく取り組んでいた」、「パリ2024オリンピック競技大会の開催年であったのでタイミングがよかった」といった感想があり、スポーツの価値（体を動かすことの楽しさ・できるようになる喜び）、効果（他者への敬意や思いやり、フェアプレイ精神といったオリンピックの価値）、行い方（ルールや技術、楽しみ方）を伝えることができた。

今後も様々なスポーツについて学校訪問・体験会等を通じて知る機会を創出し、普及推進を進めるとともに、スポーツを通じた人づくり・地域づくりにつなげられるよう、スポーツを県民にとってより身近なものとするよう取り組んでいく。

実績の詳細(実施校数)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	累計
フェンシング	5	5	5			15
サーフィン	10	8	9			27
JOCオリンピック教室	6	6	6			18
合計	21	19	20	0	0	目標
累計	21	40	60			100

4 各施策に係る具体的な取組の進捗について

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	R7予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
1	A	1	幼児期における運動遊びの充実	ア	保護者への啓発及び情報提供	家庭教育リーフレットの配付	894	1,148	916	1,100	生涯学習課	学校・家庭・地域連携室	基本的な生活習慣の確立や運動・読み聞かせの重要性等、家庭教育や子育てのポイントをまとめた「家庭教育リーフレット」(幼児版)を作成し、1歳半児健診の場などを活用し、幼児をもつ保護者に配付します。 市町村に、リーフレットを配布する際の活用例を示すとともに、幼稚園・保育所の職員にも周知し、幼稚園・保育所での活用を促進します。
2	A	1	幼児期における運動遊びの充実	ア	保護者への啓発及び情報提供	ホームページでの情報提供	-	-	-	-	生涯学習課	学校・家庭・地域連携室	県ホームページの「親力アップ！いきいき子育て広場」で市町村が発信するイベント情報を掲載
3	A	1	幼児期における運動遊びの充実	イ	指導者(保育者)への研修	「幼児期運動指針」を踏まえた指導者(保育者)の研修の推進	5,282	5,553	2,206	5,671	学習指導課	教育課程指導室	幼児期における運動遊び等について、文部科学省の「幼児期運動指針」を研修において活用し、指導者(保育者)の理解や資質・能力の向上を図ります。
4	A	1	幼児期における運動遊びの充実	イ	指導者(保育者)への研修	幼児教育アドバイザーを活用した研修の推進	4,493	5,094	2,294	5,547	学習指導課	教育課程指導室	元園長等からなる幼児教育アドバイザーを県総合教育センターに配置し、研修会での講師を務めたり、園へ出向いて指導・助言を行ったりすることで、県全体の幼児教育の質向上や、幼保小接続の円滑化を図ります。
5	A	2	学校体育活動の充実	ア	体育の授業改善と指導者の指導力向上	千葉県学校体育研究大会	100	100	100	100	保健体育課	学校体育班	学習指導計画や体育指導法の改善・充実に資するため、研究大会を開催し、学校体育指導上の問題点について研究協議等を行い、体育指導の質的改善を目指します。
6	A	2	学校体育活動の充実	ア	体育の授業改善と指導者の指導力向上	各種研修会	-	-	-	-	特別支援教育課	教育課程指導室	特別支援学校体育連盟による研修会を実施し、バラスポーツ・体育の授業内容について、特別支援学校の教師間での研究や専門家からの助言を受けます。
7	A	2	学校体育活動の充実	ア	体育の授業改善と指導者の指導力向上	学校体育研究指定校事業	324	324	324	324	保健体育課	学校体育班	学校体育指導の改善・充実に資するため、学校体育に関する教育内容、教育方法等を課題として調査研究を実施します。
8	A	2	学校体育活動の充実	イ	トップ・ブロススポーツの活用	ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業	1,000	1,000	1,000	1,000	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	体育・スポーツ活動での交流を通じて、広く子どもたちにスポーツの楽しさを体験させることを目的として、県内トップブロススポーツ団体に所属する選手、コーチ等を県内の小中学校へ派遣し、スポーツ教室や講演会等を実施します。
9	A	2	学校体育活動の充実	ウ	バラスポーツを通じた学校間交流	特別支援学校におけるバラスポーツ推進事業	60	500	54	0	特別支援教育課	教育課程指導室	特別支援学校教員及び児童生徒が、近隣の小・中学校や高齢者施設等に出向き、バラスポーツを紹介したり、一緒に試合を行ったりすることで、共にスポーツを楽しむ経験を通じた障害への理解を深めます。
10	A	2	学校体育活動の充実	エ	個々の発達段階に応じた支援の充実と指導内容の明確化	特別支援学校におけるバラスポーツ推進事業	-	-	-	-	特別支援教育課	教育課程指導室	県立特別支援学校全体でバラスポーツを推進していけるよう、新設校に他校と同等程度のバラスポーツ用具の整備を行います。

スポーツを「知る」ことについての整理	R5 取組の成果・課題	R6 取組の実績	R6 取組の成果・課題	R7 取組の見通し
②スポーツの効果を知る	基本的な生活習慣の確立や運動・読み聞かせの重要性等、家庭教育や子育てのポイントをまとめた「家庭教育リーフレット」(幼児版)を作成し、1歳半児健診の場などを活用し、幼児をもつ保護者に配付しました。市町村に、リーフレットを配付する際の活用例を示すとともに、幼稚園・保育所の職員にも周知し、幼稚園・保育所での活用を今後も促進します。	・「家庭教育リーフレット」(幼児版)35,629部配付 ・ホームページ掲載	基本的な生活習慣の確立や運動・読み聞かせの重要性等、家庭教育や子育てのポイントをまとめた「家庭教育リーフレット」(幼児版)を作成し、1歳半児健診の場などを活用し、幼児をもつ保護者に配付しました。市町村に、リーフレットを配付する際の活用例を示すとともに、幼稚園・保育所の職員にも周知し、幼稚園・保育所での活用を今後も促進します。	・「家庭教育リーフレット」(幼児版)33,000部配付 ・ホームページ掲載
④該当なし	県ホームページの「親力アップ！いきいき子育て広場」で市町村ごとの地域情報を更新しました。年度当初の市町村関連の情報については、特に速やかに更新することで県民への周知に努めます。	・ホームページの適宜更新	県ホームページの「親力アップ！いきいき子育て広場」で市町村ごとの地域情報を更新しました。年度当初の市町村関連の情報については、特に速やかに更新することで県民への周知に努めます。	・ホームページの適宜更新
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	幼児期における運動遊びの充実及び指導者(保育者)の理解や資質・能力の向上を図るために、研修会等において「幼児期運動指針」を活用した運動遊び及び活動の実施方法や園における運動習慣の基盤づくりが推進されるよう指導しました。 第2回幼稚園教育課程協議会で「幼児期における体力づくり」をテーマに大学教授による研修動画をオンデマンド配信しました。 「接続期のカリキュラム 千葉県モデルプラン」及び昨年度追加した室内でも実践できる理系・運動系のモデルプランを研究協力園にて検証し、まとめたものを周知しました。	・幼稚園等初任者研修、中堅教諭等資質向上研修1(幼稚園教諭等)、幼児教育アドバイザー育成研修、スマイル先生！若手指導力アップ研修など ・「接続期のカリキュラム 千葉県モデルプラン」の活用及び幼保小の架け橋プログラム研修を新設	・幼児期における運動遊びの充実及び指導者(保育者)の理解や資質・能力の向上を図るために、研修会等において「幼児期運動指針」を活用した運動遊び及び園における運動習慣の基盤づくりが推進されるよう指導しました。 ・第2回幼稚園教育課程協議会で「幼児期からの運動習慣形成」をテーマに大学教授による研修動画をオンデマンド配信しました。 ・「接続期のカリキュラム 千葉県モデルプラン」を研修等で活用するとともに、幼保小の架け橋プログラム研修では、園と小学校の先生が一緒に参加し、接続を意識した指導を学ぶ新たな研修を実施しました。 ・様々な幼児教育施設において、小学校との接続が推進されるよう市町村教育委員会等と連携促進していく必要があります。	・幼稚園等初任者研修、中堅教諭等資質向上研修1(幼稚園教諭等)、幼児教育アドバイザー育成研修、スマイル先生！若手指導力アップ研修など ・「接続期のカリキュラム 千葉県モデルプラン」を活用。 ・幼保小の接続が進むよう市町村教育委員会と連携する協議会等の新設
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る	幼児教育の質向上及び幼保小接続の円滑化を図るために、総合教育センターに配置した幼児教育アドバイザーが、研修会講師及び園への訪問指導を通して、スポーツの価値・効果・行い方を伝えることができました。令和5年度も、引き続き教育事務所訪問への同行や、私立幼稚園及び保育所への派遣も実施しました。	・総合教育センターに8名配置(常勤1名、非常勤7名) ・年間71回の派遣(見込み)	・幼児教育の質向上及び幼保小接続の円滑化を図るために、総合教育センターに配置した幼児教育アドバイザーが、研修会講師及び園への訪問指導を通して、幼児一人一人に応じた運動につながる遊びなどを伝えることができました。 ・今年度も、教育事務所訪問への同行や、私立幼稚園及び保育所への派遣も実施しました。	・総合教育センターに9名配置(常勤2名、非常勤7名) ・年間90回以上派遣見込み
④該当なし	令和5年11月10日に、全体会を森のホール21で、分科会を松戸市立八ヶ崎小学校、松戸市立常盤中学校、松戸市立松戸高等学校で行いました。県内より658名の学校体育関係者が参加し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について研究協議することができました。600名以上の参加は、例年と比べて多く、大会の周知、参加への呼びかけ、高等学校関係者の多数の参加等の理由が考えられます。来年度以降も同様に、多数の関係者が参加するよう、呼びかけていきます。	令和6年11月8日 全体会 印西市文化ホール 分科会 印西市立牧の原小学校 印西市立滝野中学校 県立印旛明誠高等学校 学校体育関係者589名参加	11月8日に県内の小中高から保健体育教員が一堂に会し、午前は印西市文化ホールにて表彰や顕彰を行い、国際武道大学の笠原教授による「体育学習の充実に向けたスポーツ医科学の活用」について講演をしていただきました。午後からはそれぞれの分科会場において、研究授業、研究発表、研究協議を行いました。研究協議においては、研究発表を踏まえた、体育授業の課題について活発な協議が行われました。分科会場場場の研究について、市町村教育委員会と県教育委員会がどのように関わっていくか検討が必要と思われます。	令和7年11月14日 いすみ市開催 いすみ市立太東小学校 いすみ市立岬中学校 県立大原高等学校
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	授業改善と指導者の指導力向上のため、特別支援学校の教員を対象に、バラスポーツや誰もが楽しめる活動をおとした授業づくりをテーマとした研修会を年2回開催しました。	研修会を年2回(8月、2月)開催	授業改善と指導者の指導力向上のため、特別支援学校の教員を対象に、バラスポーツや誰もが楽しめる活動をおとした授業づくりをテーマとした研修会を年2回開催しました。	バラスポーツ・体育の授業力向上 引き続き研修会を年2回開催予定
④該当なし	松戸市立松戸高等学校は指定2年目。「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育学習の充実」を目指し、AARサイクルとGBAの考えのもと探究的な授業について研究しています。流山市立東深井小学校は、「一人ひとりが自ら深い学びを実現していく体育学習」を目指し、基礎体力の向上と運動への興味関心の関連等について研究を行っています。	(継続3年目) 松戸市立松戸高等学校 (継続2年目) 流山市立東深井小学校	松戸市立松戸高等学校は指定3年目。「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育学習の充実」を目指し、AARサイクルとGBAの考えのもと探究的な授業について研究し、関東地区高等学校保健体育研究大会でその成果を発表しました。流山市立東深井小学校は、「一人ひとりが自ら深い学びを実現していく体育学習」を目指し、基礎体力の向上と運動への興味関心の関連等について、研究2年目に入り、フィードバックしながら研究を深めています。研究指定の在り方について検討するよう指示があるため、研究指定の期間も含め検討を進めます。	(新規) 富里市立富里中学校 (継続3年目) 流山市立東深井小学校
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	県内トップ・プロスポーツ団体に所属する選手、コーチ等を県内の小学校17校・中学校1校、特別支援学校1校へ派遣し、競技種目の特徴やルールなどを知り、プログラムを体験することで、運動のきっかけづくりを創生しました。課題であった、派遣希望校のニーズに対応するため、今年度より派遣校数を拡大して実施し、好評を博しました。	県内の小学校、中学校、特別支援学校20校で「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業を実施	県内トップ・プロスポーツ団体に所属する選手、コーチ等を県内の小学校18校・中学校1校、特別支援学校1校へ派遣し、競技種目の特徴やルールなどを知り、プログラムを体験することで、運動のきっかけづくりを創生しました。	県内の小学校、中学校、特別支援学校20校で「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業を実施
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	県立特別支援学校21校の教員及び児童生徒が、近隣の小・中学校等とバラスポーツをおとした交流及び共同学習等を行いました。今後もバラスポーツをおとした交流及び共同学習の実施を促進するため、市町村の小・中学校等への周知が必要です。	バラスポーツ推進のための出前授業を15校で実施	県立特別支援学校15校の教員及び児童生徒が、近隣の小・中学校等と、バラスポーツをおとした交流を行いました。今後も交流の継続・発展のため、市町村の小・中学校等へさるる周知が課題です。	交流及び共同学習や地域との交流を活用し、バラスポーツ推進のための取組を継続予定
③スポーツの行い方を知る	県立特別支援学校全体でバラスポーツを推進するため、地域へのバラスポーツ用具の貸出しを行いました。	地域へのバラスポーツ用具の貸出	県立特別支援学校全体でバラスポーツを推進するため、地域へのバラスポーツ用具の貸出しを行いました。	地域へのバラスポーツ用具の貸出

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	R7予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
11	A	3	児童生徒の体力の向上	ア	体育の授業改善、教師の指導力向上	体力・運動能力調査の実施	498	500	499	500	保健体育課	学校体育班	公立学校(定時制を除く)の全ての児童生徒を対象に、体力・運動能力を調査し、統計分析を行い、体力向上に向けた取組の基礎資料とします。 また、スポーツ庁実施の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(県内小学校5年生、中学校2年生対象)の千葉県データを統計分析し、体力・体力向上に向けた取組の基礎資料とします。
12	A	3	児童生徒の体力の向上	イ	児童生徒に対する体力向上の啓発	運動能力証の交付	258	270	254	268	保健体育課	学校体育班	体力・運動能力調査に基づき対象者に運動能力証を交付して運動の意欲化を図ります。 (対象者)公立小学校5年から高校生のうち、各年齢の総合評価基準表のA段階の児童生徒。
13	A	3	児童生徒の体力の向上	ウ	運動の日常化	いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の実施	32	31	29	33	保健体育課	学校体育班	6つの運動種目を紹介・取組を奨励して、人間関係の構築と運動習慣の定着を図ります。 ランキング1位や取組が積極的な学校などを表彰し、成績をHP等で紹介し、参加意欲の向上を図ります。
14	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	ア	地域部活動への段階的な移行	部活動の地域移行に向けた環境整備事業	10,711	229,398	82,186	373,000	保健体育課	学校体育班	令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組みます。令和4年度まではモデル事業による実践研究、令和5年度からは国庫補助金を活用した環境整備と、拠点校による実証事業を展開し、研究成果を普及することで、地域部活動の展開につなげます。
15	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	イ	外部指導者の派遣	スポーツエキスパート活用事業	3,882	4,579	4,504	5,140	保健体育課	学校体育班	スポーツの楽しさや達成感を生徒が体験する機会を豊かにし、スポーツに親しむ基礎を培うため、県立学校の運動部活動に専門的な指導力を備えた外部指導者を派遣します。
16	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	イ	外部指導者の派遣	部活動指導員配置事業	20,134	34,000	25,776	40,000	保健体育課	学校体育班	スポーツ、文化、科学等に関する部活動に係る技術的な指導に従事する部活動指導員を、希望する中学校へ配置します。 平成30年度のモデル事業の結果を踏まえ、令和元年度から部活動指導員の正式な配置を行っています。
17	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	ウ	講習会等の充実	中・高等学校運動部活動指導者講習会	32	32	32	32	保健体育課	学校体育班	運動部活動指導者の養成及び資質の向上を図るための講習会を実施します。
18	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	エ	運動部活動中の事故防止の徹底	安全で充実した運動部活動のためのガイドラインの活用	-	-	-	-	保健体育課	学校体育班	各学校において、運動部活動に対する意識改革を促します。練習時間の在り方や休息の取り方等、多方面から検証した、科学的トレーニングの積極的な導入等により、短時間で効果の得られる合理的でかつ効率的・効果的な指導を目指します。
19	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	ア	食に関する指導のあり方についての研修・研究協議	食に関する指導事業	49	50	30	50	保健体育課	給食班	県内5つの教育事務所ごとに、関係職員を対象とした食に関する指導のあり方等の研修を行います。 内容は、「学校における食育の推進(第4次千葉県食育推進計画)」「アレルギー対応・衛生管理について」説明を行っています。
20	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	ア	食に関する指導のあり方についての研修・研究協議	地域における食育指導推進事業	254	455	271	459	保健体育課	給食班	教育事務所ごとに、食育指導推進連絡協議会を設置し、各地区に在る食育指導推進委員である栄養教諭・学校栄養職員が、地域の関係者等を対象とした授業公開や指導助言を行う体制を整え、実施します。また併せて、年3回の全体連絡協議会を推進委員を集めて開催し、実践状況や課題等について協議し、指導力の向上を図ります。

スポーツを「知る」ことについての整理	R5 取組の成果・課題	R6 取組の実績	R6 取組の成果・課題	R7 取組の見通し
②スポーツの効果を知る	県内全小・中・高(全日)で新体力テスト8種目に取り組みました。 体力合計点では低下に歯止めがかかりました。全国平均との比較では、まだ上回っている状況ですがコロナ前の水準には戻っていません。コロナ禍における様々な制限が無くなった一方、運動の二極化が進んだことが考えられます。体力を保持増進するための更なる運動習慣の形成が課題です。	県内全 小学校: 642校 中学校: 309校 高等学校(全日): 125校 で実施	県内全小・中・高(全日)で新体力テスト8種目に取り組みました。 体力合計点では全国平均を上回っているものの、依然として低下した状況で推移している傾向が見られます。コロナ禍の影響や生活様式の変化などの原因が考えられます。運動への意欲付けや運動習慣の形成が課題です。	4月～11月 県内全小・中・高等学校(全日)を対象に実施する予定。
②スポーツの効果を知る	体力・運動能力調査の結果により、総合評価A段階の児童生徒に対して運動能力証を62,387名交付しました。交付数に関しては、昨年度(63,356名)から減少する結果となりましたが、交付率については、昨年度同様18.7%でした。	6月に、各公立学校へ体力・運動能力調査を行いました。	体力・運動能力調査の結果により、総合評価A段階の児童生徒に対して運動能力証を62,470名交付しました。交付数に関しては、昨年度(61,639名)から増加する結果となりました。交付率については、昨年度より0.1%増の18.8%でした。	6月に、各公立学校へ体力・運動能力調査の実施を依頼します。
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る	今年度は、3年ぶりに通常盤(10種目)での実施となりました。各期大賞、年間大賞の授賞も再開され、昨年度よりも参加率は上昇傾向にあります。今後の課題としては、遊・友スポーツランキングちばの周知仕方についてです。より多くの学校に実施いただけるように広報活動に力を入れる必要があります。また、種目数が増えたことで、ランキング更新に時間がかりすぎでしまい、頻繁な記録更新ができなかった。種目の精選や実施方法を検討が必要だと考えます。	・実施時期: 前期4～9月、後期10～2月 ・表彰方法: 各期及び年間で表彰。	今年度は、8種目で実施し、今まで3期に分けて表彰していたところを、前後期の2期に変更しました。研修会等で積極的な取組を周知し、昨年度の参加率とほぼ同等となっています。 今後の課題としては、遊・友スポーツランキングちばの申請の仕方を、申請する側と受け取る側の両方の負担軽減につながるようなシステムを構築することです。また、児童生徒の体力向上につながる種目の精選や実施方法を検討する必要があります。さらに、ランキング形式以外の形式を検討して、運動習慣の形成につながるような実施方法を取り入れることが課題です。	・実施時期: 前期6～9月、後期10～1月 ・表彰方法: 各期及び年間で表彰。 ・申請方法: システムを変更しました。 ・ランキング部門の他に、運動習慣の形成につながるチャレンジ部門を新設し実施します。
④該当なし	実証事業における地域に応じた課題の共有等を行い、今年度は202の地域スポーツクラブが活動しました。各市町村における推進組織も年度内に80%設置済みです。県としても、12月に地域クラブ指導者人材バンクを設立し、3月末現在で登録が770名を超えました。また、県内の地域クラブ指導者を希望する人材に対する講習会を開催する等、各地域の課題に寄り添った施策を展開しました。	実証事業を21市町村で実施しました。	実証事業における地域が抱える課題の共有等を行い、今年度は250の地域スポーツクラブ設置され、活動しています。各市町村における推進組織も年度内に98%が設置済みです。 県が設立した地域クラブ指導者人材バンクには、12月末現在で登録が1,070名を超え、50名を超える指導者が地域クラブ等で指導に当たっています。また、県内の地域クラブ指導者を希望する人材に対して、トッププロチームや企業の講師による講習会を開催しました。 地域によって実情が異なり、課題も多岐にわたるため、どのように課題を解決していくかが課題です。	実証事業を24市町で実施する。
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	部活動に所属している生徒が、外部指導者から専門的な指導を短期集中または定期的に受けることができました。	派遣指導者数: 49人 (派遣校数44校)	スポーツエキスパートの派遣により、専門的な技術指導を受けることができ、生徒の競技力向上につながりました。派遣回数が基本的に24回と少ないため、増やしてほしいという声が多いことから、派遣人数と派遣回数を増やしていくことが課題です。	派遣指導者数: 54人 (派遣校数49校)
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	専門的な指導、指導体制の充実や部活動顧問の負担軽減等の効果が得られています。各市町村での人材確保や予算が課題となっています。	希望する19市町の公立中学校運動部に125人の部活動指導員を配置しました。	昨年度と比較すると、部活動指導員の配置人数も増え、教員の部活動へ従事する時間も、平日休日とも削減されました。実際に市町が配置申請した人数から見た配置率は85.2%となっています。学校が希望する指導者が見つからず、申請はしたけれど配置できないことが課題となっています。	18市町に161人を配置する予定です。人材バンクの活用を周知していきます。
③スポーツの行い方を知る	部活動指導の経験の少ない受講生の先生方が、緊急時対応や応急処置の理論と方法を学ぶことができました。内容が多く、時間が足りないことが課題となります。今後、内容の精査や展開方法の更なる工夫が必要かと思われます。	・開催日: 11月26日(火) ・参加者数: 59名 ・講師: 山本 利春先生	部活動指導の経験の少ない教員を対象に、「スポーツ傷害の予防と応急処置」について国際武道大学 山本教授から講義と実技を交えて指導をしてもらいました。スポーツ外傷の応急処置の重要性や、学校スポーツ現場における緊急時対応計画という充実した内容で、行政説明も含めると時間が足りないため、内容の見直しが必要と考えます。	部活動における不適切な指導が根絶できていないことから、言葉がけや指導法について学ぶ内容を取り入れることを検討。
④該当なし	体育主任研修会や小中学校体育連盟、高等学校体育連盟、高等学校野球連盟等の会議において、部活動ガイドラインを遵守した活動の徹底について周知をしました。	安全な運動部活動の運営と、ガイドラインを遵守について周知しました。	体育主任研修会や小中学校体育連盟、高等学校体育連盟、高等学校野球連盟等の会議において、部活動ガイドラインを遵守した活動の徹底について周知をしました。 また、高等学校を訪問した際に、指導主事による部活動視察を行っています。 各学校で策定した活動方針を提出してもらい、適切な練習時間や休養日の設定ができているか確認しました。	各学校で策定している活動方針と練習時間や休養日の設定に乖離がないように、部活動の適切な運営に取り組むことについて周知していきます。
④該当なし	成果としては、県内5つの教育事務所管内の関係者(管理職、栄養教諭等、市町村教育委員会担当者)を集め(南房総教育事務所管内はオンライン形式)、食に関する指導についての説明を行い、周知を図ることができました。 課題としては、食に関する指導を各学校の全教職員が学校教育活動全体を通じて実施していくことができるよう、今後様々な面から周知していく必要があります。	・葛南地区(令和6年8月1日) ・東葛飾地区(令和6年10月9日) ・北総地区(令和6年10月25日) ・東上総地区(令和6年10月18日) ・南房総地区(令和6年10月22日)	成果としては、県内5つの教育事務所管内の関係者(管理職、栄養教諭等、市町村教育委員会担当者)を集め(南房総教育事務所管内はオンライン形式)、食に関する指導についての説明を行い、周知を図ることができました。 課題としては、食に関して学校や職員の意識の差が大きいことです。食に関する指導を各学校、全教職員が学校教育活動全体を通じて実施していくことができるよう指導体制を整える必要があります。	・葛南地区(令和6年8月) ・東葛飾地区(令和6年10月) ・北総地区(令和6年10月) ・東上総地区(令和6年10月) ・南房総地区(令和6年10月)
④該当なし	8人の推進委員が、それぞれの所属先の小中学校で授業公開を実施しました(市川市、習志野市、松戸市、野田市、四街道市、酒々井町、睦沢町、木更津市)。各校では、管内地域から参観者を募り、食に関する指導を通して実践力向上を図りました。 課題としては、授業公開への参加者を増やす必要があり、各教育事務所、各市町村教育委員会及び関係団体への更なる周知と呼び掛けに努めます。	16人いる推進委員のうち、当初予定である半数の8人が授業公開を実施	8人の推進委員が、それぞれの所属先の小中学校で授業公開を実施しました(船橋市、習志野市、松戸市、佐倉市、八街市、長生村、市原市)。各校では、管内地域から参観者を募り、食に関する指導を通して実践力向上を図りました。 課題としては、授業公開への参加者を増やす必要があり、各教育事務所、各市町村教育委員会及び関係団体への更なる周知と呼び掛けに努めます。	16人いる推進委員のうち、8人が授業公開を実施予定

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	R7予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
21	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	イ	地域と連携した学校給食・食育活動支援	高等学校と連携した食育活動支援事業	723	999	607	999	保健体育課	給食班	農業・水産系高等学校を支援校として、支援校のある地域の幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校から参加校を選定し、農作業や飼育されている動物と触れ合うなどの体験活動を展開する。また、高校生と園児や小中学生の交流を通して、それぞれの発達段階に応じた千葉県ならではの食育活動を支援します。
22	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	イ	地域と連携した学校給食・食育活動支援	学校給食における千産千消デーの取組	—	—	—	—	保健体育課	給食班	公立学校の給食実施校で「千産千消デー」を設定し、県内・域内地場産物を活用した学校給食を提供するとともに、それを生かした食育を推進します。
23	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	ウ	食育の啓発と情報提供	(食育の啓発と情報提供)	—	—	—	—	保健体育課 (環境農業推進課)	給食班 (食育推進班)	「食」に関する情報を積極的に保護者に提供し、家庭と連携した食育の推進を図ります。
24	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ア	働き盛り・子育て世帯のスポーツの更なる推進	「スポーツ推進月間」の実施	350	350	300	350	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	働き盛り・子育て世代が、スポーツに親しみ、運動習慣の定着を図るきっかけとなることを目的として、9月から12月を「スポーツ推進月間」と定め、親子を対象とした体験講習会やスポーツ教室等を総合型スポーツクラブと近隣小学校等が連携して実施します。
25	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ア	働き盛り・子育て世帯のスポーツの更なる推進	ライフステージに応じたスポーツの情報発信	—	—	—	—	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	ライフステージに応じたスポーツの推進のため、対象者に合ったスポーツの取組みや各種イベント等の情報を「見つけやすく」「わかりやすく」発信します。
26	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	イ	総合型地域スポーツクラブに対する支援	(総合型地域スポーツクラブに対する支援)	1,067	1,067	901	1,017	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	総合型地域スポーツクラブや市町村の課題を捉え、ニーズに合った形態での集会・研修会を開催し、設立支援・自立活性化支援を行います。また、運営協議会では、広域スポーツセンター事業の課題について検討し、総合型地域スポーツクラブを中心とした地域コミュニティづくりと県民のスポーツ活動の推進を図ります。
27	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ウ	シニア・スポーツの推進	老人クラブでのシニアスポーツ推進	8,453	6,800	8,619	11,908	高齢者福祉課	地域活動推進班	千葉県老人クラブ連合会が実施する事業に対して助成するとともに、市町村の老人クラブ連合会や個々の老人クラブの活動を支援するために市町村への間接補助を行います。 県老人クラブでは、シニア・スポーツとして、ゲートボールやグランドゴルフ等のスポーツ大会の地区予選及び県大会を県内約10ヶ所で開催し、優秀な成績を修めた人を、全国健康福祉祭(ねんりんピック)に派遣する県の代表として推薦します。
28	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ウ	シニア・スポーツの推進	ねんりんピックへの選手団派遣	12,536	15,508	9,884	15,021	高齢者福祉課	地域活動推進班	全国健康福祉祭(ねんりんピック)へ選手団を派遣し、世代間・地域間の交流を深め、本県の高齢者スポーツを推進します。
29	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ウ	シニア・スポーツの推進	千葉県福祉ふれあいプラザにおける介護予防に資する運動の場の提供	93,500	93,500	(93,500)	94,800	高齢者福祉課	地域活動推進班	千葉県福祉ふれあいプラザの介護予防トレーニングセンターにおいて、高齢者も使用しやすい運動機器や専門のスタッフを配置し、利用者一人ひとりに合った運動プログラムを提供し、運動支援を行います。 また、多くの高齢者が利用できるよう、介護予防トレーニングセンターについて、ホームページやポスター等で広く周知します。
30	B	2	多様化するスポーツライフの充実・発展	ア	健康ちば21(第2次)の推進に係る各種啓発事業(～R6.3.31) 健康ちば21(第3次)の推進に係る各種啓発事業(R6.4.1～)	健康ちば21(第2次)の推進に係る各種啓発事業(～R6.3.31) 健康ちば21(第3次)の推進に係る各種啓発事業(R6.4.1～)	245	1,005	234	1,011	健康づくり支援課	健康ちば推進班	・指導者の技術指導力向上を目的として実施している「健康体力づくり指導者研修会」は、より多くの専門職に参加してもらうため、オンデマンド配信等Webを活用した方法で行います。 ・日常生活の中で手軽にできる運動について、「WORK+10(ワークプラステン)」リーフレットの配布及びホームページでの啓発・普及を行います。 ・各市町村独自のウォーキングマップ及び体操についてホームページを通じた情報提供を行います。

スポーツを「知る」ことについての整理	R5 取組の成果・課題	R6 取組の実績	R6 取組の成果・課題	R7 取組の見通し
④該当なし	支援校である高等学校の園場を活用し、米や野菜などの作付けから収穫までを高校生と小中学生とが交流しながら活動することができました。また、高校生が参加校に出向き、収穫した野菜の調理実習を共に行うなど、年間を通じて体験を伴った活動を展開することができました。課題としては、作付けから収穫までのそれぞれが天候に左右されるため、予定を変更せざるを得ないことがあり、支援校と参加校との連携を綿密に行うことが求められます。	県立多古高等学校、県立君津高等学校を支援校に、多古町立中村小学校、多古町立久賀小学校、君津市立小糸小学校、君津市立周東中学校が参加校として実施	支援校である高等学校の園場を活用し、米や野菜などの作付けから収穫までを高校生と小中学生とが交流しながら活動することができました。また、高校生が参加校に出向き、収穫した野菜の調理実習を共に行うなど、年間を通じて体験を伴った活動を展開することができました。課題としては、1年の取組で終わるのではなく、次年度以降も継続して行うことができるよう教科に位置付けていくことが重要であると考えます。	県立薬園台高等学校、県立大原高等学校を支援校に、近隣小中学校が参加校として実施
④該当なし	各市町村内にある単独調理場、共同調理場及び関係県立学校の約620施設で千産千消デーが実施され、それぞれ、県内や域内の地場産物の活用が図られました。	約620施設で実施	各市町村内にある単独調理場、共同調理場及び関係県立学校の約620施設で千産千消デーが実施され、それぞれ、県内や域内の地場産物の活用が図られました。	約620施設で実施予定
④該当なし	各学校、調理場から「食」に関する情報を給食だよりや食育だより、ホームページ等を活用しながら保護者に対して提供し、食育の啓発、推進が図られました。	各学校における学校だよりや給食だより等の発行をはじめ、食育の啓発に関する情報を各自自治体からも発信	各学校、調理場から「食」に関する情報を給食だよりや食育だより、ホームページ等を活用しながら保護者に対して提供し、食育の啓発、推進が図られました。	各学校における学校だよりや給食だより等の発行をはじめ、食育の啓発に関する情報を各自自治体からも発信
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	働き盛り・子育て世代が、スポーツに親しみ、運動習慣の定着を図るきっかけとなることを目的として、8月末から11月末に「スポーツ推進月間」として、親子を対象とした体験講習会やスポーツ教室等を総合型スポーツクラブと近隣小学校等が連携して実施しました。	県内数か所で「スポーツで元氣いっぱい！親子体験イベント」等を実施	働き盛り・子育て世代が、スポーツに親しみ、運動習慣の定着を図るきっかけとなることを目的として、8月末から11月末に「スポーツ推進月間」として、親子を対象とした体験講習会やスポーツ教室等を総合型スポーツクラブと近隣小学校等が連携して実施しました。	県内数か所で「スポーツで元氣いっぱい！親子体験イベント」等を実施予定
③スポーツの行い方を知る	生涯スポーツ推進のため、各種イベント等の情報を発信しています。	スポーツに関する情報の発信	生涯スポーツ推進のため、各種イベント等の情報を発信しています。	スポーツに関する情報の発信
④該当なし	総合型地域スポーツクラブや市町村の課題を捉え、12月6日に情報交換会を開催し、設立支援・自立活性化支援を行いました。また、設立支援として東金市を訪問し、1クラブを今年度新規設立するとともに、クラブの認知度向上のため、周知ポスターを作成し、各所に配付しました。今後、運営協議会では、広域スポーツセンター事業の課題について検討し、総合型地域スポーツクラブを中心とした地域コミュニティづくりと県民のスポーツ活動の推進を図ります。	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会への積極的な参加及び設立希望のある地域の市町村と協力し、クラブアドバイザー派遣等の支援	総合型地域スポーツクラブや市町村の課題を捉え、12月10日に情報交換会を開催し、設立支援・自立活性化支援を行いました。また、設立支援として大多喜町を訪問し、1クラブを今年度新規設立予定です。今後、運営協議会では、広域スポーツセンター事業の課題について検討し、総合型地域スポーツクラブを中心とした地域コミュニティづくりと県民のスポーツ活動の推進を図ります。	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会への積極的な参加及び設立希望のある地域の市町村と協力し、クラブアドバイザー派遣等の支援
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る	千葉県老人クラブ連合会が実施する事業に対して助成するとともに、市町村の老人クラブ連合会や個々の老人クラブの活動を支援するために市町村への間接補助を行いました。県老人クラブ連合会では、シニア・スポーツとして、ゲートボールやグランドゴルフ等のスポーツ大会の地区予選及び県大会を開催し、優秀な成績を収めた人を全国健康福祉祭（ねんりんピック）に派遣する県の代表として推薦しました。	千葉県老人クラブ連合会及び市町村に対し補助金を交付	千葉県老人クラブ連合会が実施する事業に対して助成するとともに、市町村の老人クラブ連合会や個々の老人クラブの活動を支援するために市町村への間接補助を行いました。県老人クラブ連合会では、シニア・スポーツとして、ゲートボールやグランドゴルフ等のスポーツ大会の地区予選及び県大会を開催し、優秀な成績を収めた人を全国健康福祉祭（ねんりんピック）に派遣する県の代表として推薦しました。	千葉県老人クラブ連合会及び市町村に対し補助金を交付
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る	令和5年度の全国健康福祉祭（ねんりんピック）は、第35回えひめ大会で、10月28日～10月31日までの4日間開催されました。世代間・地域間の交流を深め、本県の高齢者スポーツを推進しました。	・開催地：鳥取県 ・種目数：22種目 ・開催日：令和6年10月19日～22日 ・143名参加	令和6年度の全国健康福祉祭（ねんりんピック）は、第36回とっとり大会で、10月19日～10月22日までの4日間開催されました。世代間・地域間の交流を深め、本県の高齢者スポーツを推進しました。	・開催地：岐阜県 ・種目数：30種目（予定） ・開催日：令和7年10月18日～21日
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	千葉県福祉ふれあいプラザの介護予防トレーニングセンターにおいて、高齢者も使用しやすい運動機器や専門のスタッフを配置し、利用者一人ひとりに合った運動プログラムを提供し、運動支援を行いました。また、多くの高齢者が利用できるよう、介護予防トレーニングセンターについて、ホームページやポスター等で広く周知しました。	介護予防トレーニングセンターの運営 （令和6年度利用者：32,172人）	千葉県福祉ふれあいプラザの介護予防トレーニングセンターにおいて、高齢者も使用しやすい運動機器や専門のスタッフを配置し、利用者一人ひとりに合った運動プログラムを提供し、運動支援を行いました。また、多くの高齢者が利用できるよう、介護予防トレーニングセンターについて、ホームページやポスター等で広く周知しました。	介護予防トレーニングセンターの運営
②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	日常生活の中で手軽にできる運動について「WORK+10（ワークプラステン）」リーフレットの増刷を行い、43市町村等に対し計18,000部配布し、併せてホームページでの啓発・普及を行いました。また、ロコモティブシンドローム予防及びフレイル予防を普及啓発できる人材育成として、個々の身体の状態に合わせた適切な運動指導技術の向上を図るため、9月22日～10月13日にかけてオンデマンド形式にて健康・体力づくり指導者研修会を開催し、107名の申し込みがありました。また、各市町村独自の体操について、県ホームページに現在33市町の46種類の体操について情報提供しています。	・個々の身体の状態に合わせた適切な運動指導技術の向上を図るため、R7年2月7日～21日にかけて、オンデマンド形式にて健康・体力づくり指導者研修会を開催し、170名からの申込があった。 ・ホームページやリーフレットの配布を通じて、ロコモティブシンドロームやプラステンなどの周知啓発を実施	日常生活の中で手軽にできる運動について「WORK+10（ワークプラステン）」リーフレットの増刷を行い、40市町村等に対し計20,640部配布し、併せてホームページでの啓発・普及を行いました。また、ロコモティブシンドローム予防及びフレイル予防を普及啓発できる人材育成として、個々の身体の状態に合わせた適切な運動指導技術の向上を図るため、令和7年2月7日～21日にかけてオンデマンド形式にて健康・体力づくり指導者研修会を開催し、170名からの申込がありました。また、各市町村独自の体操について、県ホームページに現在33市町の46種類の体操について情報提供しています。	・個々の身体の状態に合わせた適切な運動指導技術の向上を図るため、11月中旬に千葉県総合スポーツセンターにて健康・体力づくり指導者研修会の開催を予定。 ・ホームページやリーフレットの配布を通じて、ロコモティブシンドロームやプラステンなどの周知啓発を実施

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	R7予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
31	B	2	多様化するスポーツライフの充実・発展	イ	情報共有システムの構築と情報発信	情報共有システムの構築	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	市町村の生涯スポーツ担当者研修会において、各地域の指導員の資質向上、ライフステージに合わせたスポーツ実施方法等について理解を深めるとともに、各地域の好事例を共有します。また、総合型地域スポーツクラブの研修会等において、クラブの取組状況や課題点を共有し、県内における活動の活性化を図ります。
32	B	2	多様化するスポーツライフの充実・発展	イ	情報共有システムの構築と情報発信	スポーツイベント・多様なスポーツ・スポーツ施設等の情報発信	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県民が様々な側面からスポーツを知ることができるよう、イベントの最新情報や家庭でできる運動実施例等について、各種媒体を通じて発信します。また、スポーツに関する情報を「見つけやすく」、「わかりやすい」情報提供するため、コンテンツの充実を図り、最新情報が常に提供できるよう更新作業に努めます。
33	C	1	バラスポーツの推進	ア	共生社会に向けたアプローチの推進	特別支援学校におけるバラスポーツ推進事業	130	-	-	-	特別支援教育課	教育課程指導室	特別支援学校の体育施設及びバラスポーツの用具の貸出し、各地区の特別支援学校の取組状況やバラスポーツの出前授業の案内と併せて、競技方法やルール解説を掲載したパンフレットを製作し、配布します。
34	C	1	バラスポーツの推進	ア	共生社会に向けたアプローチの推進	バラスリット等による学校訪問の実施	11,831	12,076	11,848	11,834	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	バラスポーツを通じて児童・生徒の障害への理解を深め、障害のある人もない人もお互いを認め合う共生社会の実現を目的として、県内の小中学校にバラスリット等を派遣し、各種講演や体験会を実施します。
35	C	1	バラスポーツの推進	ア	共生社会に向けたアプローチの推進	バラスポーツ教室の開催	-	2,500	2,480	5,000	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害のある方が身近な地域でバラスポーツを体験できる機会を提供するため、県立特別支援学校を活用し、バラスポーツ教室を開催します。
36	C	1	バラスポーツの推進	ア	共生社会に向けたアプローチの推進	バラスポーツフェスタの開催	7,500	6,814	6,814	7,148	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	バラスポーツを広く県民に周知し、障害のある・なしに関わらず様々な方がバラスポーツを通じて交流し、障害への理解を図るため、「バラスポーツフェスタ」を開催し、バラスポーツの体験会や対抗戦を実施します。
37	C	1	バラスポーツの推進	イ	バラスポーツ参画人口の拡大	バラスポーツ競技体験会への支援	15,000	15,000	15,000	15,000	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害者スポーツ競技団体の活性化や競技人口等の増加を図るため、各競技団体等が競技の普及のために実施する体験会等に対し助成を行います。
38	C	1	バラスポーツの推進	イ	バラスポーツ参画人口の拡大	市町村地域で実施する取組への支援	12,200	12,200	12,200	24,257	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	市町村や団体等が、地域の大学や障害者施設、クラブチーム等と連携し、バラスポーツ大会や体験会、教室等を主体的に取り組める体制を築くことを目的として、コーディネーターを派遣し、スポーツの場の掘り起こしや組織づくりを行うとともに、体験会等を開催できるように促します。
39	C	1	バラスポーツの推進	イ	バラスポーツ参画人口の拡大	指導者講習会・研修会の充実	1,875	1,875	1,875	1,882	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援し、健康や安全管理に配慮した指導及びスポーツの楽しさを伝える役割を担う初級障がい者スポーツ指導員を養成するため、「初級障がい者指導員養成講習会」を実施します。また、初級障がい者スポーツ指導員の有資格者を対象に、フォローアップ研修として「障がい者スポーツ指導者研修会」を実施します。
40	C	1	バラスポーツの推進	イ	バラスポーツ参画人口の拡大	バラスポーツの広報の強化	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県民のバラスポーツに対する理解を深めるとともに、障害のある人のスポーツに取り組む意欲を喚起することを目的として、バラスポーツ普及・啓発用の映像及びリーフレットの制作を行います。また、ちば県民だより等の県の広報ツールを活用し、バラスポーツの広報を行います。

スポーツを「知る」ことについての整理	R5 取組の成果・課題	R6 取組の実績	R6 取組の成果・課題	R7 取組の見通し
③スポーツの行い方を知る	市町村の生涯スポーツ担当者研修会において、生涯スポーツ振興課生涯スポーツ室の事業内容について説明し、各市町村でのスポーツ振興に寄与することができました。	市町村の生涯スポーツ担当者研修会及びクラブマネジャー養成講座等を通じて、事例等を情報共有	市町村の生涯スポーツ担当者研修会において、生涯スポーツ振興課生涯スポーツ室の事業内容について説明し、各市町村でのスポーツ振興に寄与することができました。	市町村の生涯スポーツ担当者研修会及びクラブマネジャー養成講座等を通じて、事例等を情報共有
③スポーツの行い方を知る	昨年度に引き続き、ホームページの中身の精査を行いました。スポーツに関する情報を「見つけやすく」「わかりやすい」情報提供するため、コンテンツの充実を図り、最新情報が常に提供できるよう更新作業を進めています。	県民だよりや千葉県ホームページなどを活用し、スポーツイベント等の情報を発信	昨年度に引き続き、ホームページの中身の精査を行いました。スポーツに関する情報を「見つけやすく」「わかりやすい」情報提供するため、コンテンツの充実を図り、最新情報が常に提供できるよう更新作業を進めています。	県民だよりや千葉県ホームページなどを活用し、スポーツイベント等の情報を発信
③スポーツの行い方を知る	バラスポーツを通じた共生社会の推進のために、各県立特別支援学校で貸出し可能なバラスポーツ用具について、パンフレットを修正し、関係機関へ配布しました。	各県立特別支援学校で貸出し可能なバラスポーツ用具の周知	バラスポーツを通じた共生社会の推進のために、各県立特別支援学校で貸出し可能なバラスポーツ用具について、パンフレット（保存版）等を活用し、関係機関へ周知しました。	各県立特別支援学校で貸出し可能なバラスポーツ用具の周知（千葉県HPにて「県内のバラスポーツ等用具の貸出」にて紹介・データ提供）
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果をj知る ③スポーツの行い方を知る	県内公立小中学校18校及び特別支援学校12校に、車いすバスケットボールや車いすラグビー、パラバレーボール（座位）のアスリート等を派遣し、講演会や体験会を開催しました。また、特別支援学校においては、地域の方と一緒にバラスポーツを通して取り組みました。アスリートとの触れ合いや競技への理解により、児童・生徒や地域住民の障害への理解を深めることができました。	県内の小中学校のうち、各17校及び特別支援学校13校を選定し、「パラアスリート等学校訪問事業」を実施	県内公立小中学校17校及び特別支援学校13校に、車いすバスケットボールや車いすラグビー、ゴールボール、パラ卓球、5人制サッカー、パラバドミントン、ボッチャの7競技のアスリート等を派遣し、講演会や体験会を開催しました。また、特別支援学校においては、地域の方と一緒にバラスポーツを通して取り組みました。アスリートとの触れ合いや競技への理解により、児童・生徒や地域住民の障害への理解を深めることができました。	県内の小中学校のうち、各教育事務所管内から計18校（各管内の児童生徒人口比で実施校数設定に変更）及び特別支援学校12校を選定し、「パラアスリート等学校訪問事業」を実施予定
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果をj知る ③スポーツの行い方を知る	-	11月から2月の間に各校3回スポーツ教室を実施	スポーツ教室の参加者が各回10名前後であり、特に特別支援学校に在学している方の参加が多かった。休日、体を動かす機会がすぐないこともあり、大変助かるといった参加者の保護者からの声が複数あり、ニーズに即した事業となったものと考える。特別支援学校在学者以外の参加率がまだまだ少ないこともあるので、周知方法について研究の必要がある。	県立特別支援学校（船橋夏見・栄・大網白里・横の実）の4校は継続し、新たに（桜が丘・矢切）の2校に拡充して、体育施設を活用し、バラスポーツ教室を開催する予定。
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果をj知る ③スポーツの行い方を知る	「バラスポーツフェスタちば」では、16競技を実施し、延べ3,409名が参加し、「バラスポーツフェスタとうかつ」では、7競技を実施し、延べ1,548名が参加しました。障害のある方の参加率が低い状況にあり、今後さらに障害のある方が参加しやすいイベントとなるよう、実施方法や申し込み方法を検討していく必要があります。	8月に千葉ポートアリーナで「バラスポーツフェスタちば」、12月に我孫子市民体育館で「バラスポーツフェスタとうかつ」を開催	「バラスポーツフェスタちば」では、14競技を実施し、延べ4,062名が参加し、「バラスポーツフェスタとうかつ」では、7競技を実施し、延べ1,187名が参加しました。障害のある方の参加率が低い状況にあり、今後さらに障害のある方が参加しやすいイベントとなるよう、実施方法や申し込み方法を検討していく必要があります。	8月に千葉ポートアリーナで「バラスポーツフェスタちば」、11月に東葛飾地域で「バラスポーツフェスタとうかつ」を開催予定
③スポーツの行い方を知る	千葉県内の障害者スポーツ競技団体19団体が開催する体験会等に対して、費用の助成を行いました。各19団体が開催した体験会では参加者数は延べ1,300名が参加しました。	参加者数が40人以上の体験会を実施する10団体及び40人未満の体験会を実施する9団体に助成金を支出	千葉県内の障害者スポーツ競技団体19団体が開催する体験会等に対して、費用の助成を行いました。各19団体が開催した体験会では参加者数は延べ1,300名が参加しました。	参加者数が40人以上の体験会を実施する10団体及び40人未満の体験会を実施する9団体に助成金を支出
③スポーツの行い方を知る	4市、2団体の計6か所にコーディネーターを派遣し、体験会や教室の開催の支援を行いました。コーディネーターの活用後も、市町村や団体が主体的に体験会や教室を継続して実施できるように、コーディネーターと市町村が深く関わりながら体験会や教室を実施していく必要があります。	コーディネーター派遣事業として、6市にコーディネーターを派遣予定	6市にコーディネーターを派遣し、体験会や教室の開催の支援を行いました。コーディネーターの活用後も、市町村や団体が主体的に体験会や教室を継続して実施できるように、コーディネーターと市町村が深く関わりながら体験会や教室を実施していく必要があります。	コーディネーター派遣事業として、6市町村（うち3市は新規）、にコーディネーターを派遣予定 また新たに、スポーツをしたい障害者向けにアドバイスするバラスポーツコーディネーターを配置予定。
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果をj知る ③スポーツの行い方を知る	公益財団法人日本バラスポーツ協会公認の初級バラスポーツ指導員を養成するため、「初級バラスポーツ指導者養成講習会」を9月と1月の年2回開催し、49名を養成しました。また、障がい者スポーツ指導員をはじめ、障害のある人の活動を支える方のスキルアップのため、「障害者スポーツ指導者研修会」を5月に開催しました。	初級バラスポーツ指導員養成講習会を2回、バラスポーツ指導員養成研修会を1回開催	公益財団法人日本バラスポーツ協会公認の初級バラスポーツ指導員を養成するため、「初級バラスポーツ指導者養成講習会」を9月と1月の年2回開催し、60名を養成しました。また、障がい者スポーツ指導員をはじめ、障害のある人の活動を支える方のスキルアップのため、「障害者スポーツ指導者研修会」を5月に開催しました。	初級バラスポーツ指導員養成講習会を2回、バラスポーツ指導員養成研修会を1回開催
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果をj知る ③スポーツの行い方を知る	バラスポーツ普及・啓発用の映像及びリーフレットにおいて、ボッチャ、フライングディスク、陸上、水泳、車いすバスケット、パラバドミントンの計6競技を紹介し、これからバラスポーツを始めたい方に向けて、周知を行いました。また、バラスポーツフェスタちばやバラスポーツフェスタとうかつにおいて、会場で映像を流し、体験会の順番待ちの方等において周知をしました。	制作したバラスポーツ普及・啓発用映像及びリーフレットを活用し、バラスポーツの広報を行う	バラスポーツ普及・啓発用の映像及びリーフレットにおいて、ボッチャ、フライングディスク、陸上、水泳、車いすバスケット、パラバドミントンの計6競技を紹介し、これからバラスポーツを始めたい方に向けて、周知を行いました。また、バラスポーツフェスタちばにおいて、会場で映像を流し、体験会の順番待ちの方等において周知をしました。	制作したバラスポーツ普及・啓発用映像及びリーフレットを活用し、バラスポーツの広報を行う

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	R7予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
41	C	1	バラスポーツの推進	ウ	障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進	障害者スポーツ大会等のイベント開催及び選手団の派遣	63,587	・10,188 ・53,741 ・2232	・10,188 ・53,741 ・2232	・10188 ・51850 ・2029	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	・知的障害のある人とその支援者等が一堂にたどり、スポーツを通じて体力の増進と親睦を図り、併せて社会の人々から多くの支援と理解を得ることを目的として、玉入れ、パン食い競走などのレクリエーション大会として、「手をつなぐスポーツのつどい」を実施します。 ・障害者スポーツの振興を図り、障害のある人の自立と社会参加の推進に寄与することを目的として、関係団体等と連携し、陸上競技を中心として、ほか11競技の千葉県障害者スポーツ大会を実施します。 ・全国障害者スポーツ大会へ千葉県代表選手団を派遣します。
42	C	1	バラスポーツの推進	ウ	障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進	バラスポーツ組織の整備	9,800	9,800	9,800	9,800	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県内の障害者スポーツ選手を輩出するため、競技団体が少なく、既存組織を活用した選手の育成・支援が困難であること等を踏まえ、障害者が競技に参加できる環境を作り、競技体験会を実施するとともに、幅広く有望選手を掘り起こすための強化・支援を行います。
43	C	1	バラスポーツの推進	ウ	障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進	千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンターの活用	34,613	28,700	28,700	30,400	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害のある人のスポーツ・レクリエーション活動の拠点施設として、障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の貸出を行います。また、センター独自の教養講座やセンター利用者による交流会等を実施し、障害のある人の参加機会の充実を図ります。
44	C	1	バラスポーツの推進	ウ	障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進	千葉県障がい者スポーツ指導者協議会との連携	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障がい者スポーツ指導者の活動の増進を推進するため、千葉県内における障がい者スポーツ指導者の統括団体である千葉県障がい者スポーツ指導者協議会との連携を行います。
45	C	2	パラアスリートへの強化・支援の推進	ア	パラ競技組織の体制整備の推進及びバラスポーツ選手の掘り起こしと育成	パラ競技組織の支援体制の充実	9,800	9,800	9,800	9,800	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	No.41 C-1「バラスポーツ組織の整備」に記載
46	C	2	パラアスリートへの強化・支援の推進	ア	パラ競技組織の体制整備の推進及びバラスポーツ選手の掘り起こしと育成	競技人口の増加に向けた取組	5,200	5,200	5,200	5,200	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	No.36 C-1「バラスポーツ競技体験会への支援」に記載
47	C	2	パラアスリートへの強化・支援の推進	イ	パラアスリートの競技力強化の推進	合宿・遠征等への強化・支援	33,560	35,750	34,853	39,300	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	海外・国内の遠征や強化合宿、競技用具の整備、ジュニアナショナルチームの選考会や全国大会への派遣、運動能力測定や医療費助成、ドクターやトレーナーの派遣等の医・科学サポート等、パラリンピック出場に向けた強化活動を支援します。
48	D	1	人材の育成	ア	スポーツ指導者の養成・資質の向上	指導者養成講習会の実施	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	地域のスポーツ指導者養成を目的として、生涯スポーツ公認指導員やスポーツリーダー、クラブマネージャー、公認障害者スポーツ指導者の講習会等を実施します。 研修会においては、新しい生活様式における安心安全なスポーツの楽しみ方や「する・みる・ささえる」スポーツを更に推進していくため、スポーツの価値を伝えることの重要性を発信します。
49	D	1	人材の育成	ア	スポーツ指導者の養成・資質の向上	指導者の資質の向上の推進	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	各競技団体や関係機関と協力しながら、指導者の養成・確保が促進されるよう組織的な取組を行います。また、スポーツ・インテグリティの推進・促進のために、若手指導者の資質向上を目的とした、若手指導者養成研修を支援します。
50	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	要項や受賞者紹介等、表彰制度の周知	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	スポーツ振興及び県民のふるさと意識の高揚に資することを目的として、千葉県県民栄誉賞表彰要綱に準じ、スポーツ活動を通じ、広く県民に敬愛され、社会に明るい希望と活力を与えとともに千葉県の名を高めることに顕著な功績のあった者について表彰します。

スポーツを「知る」ことについての整理	R5 取組の成果・課題	R6 取組の実績	R6 取組の成果・課題	R7 取組の見通し
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る	「千葉県障害者スポーツ大会」では、計3,475名が参加しました。 特別全国障害者スポーツ大会（燃ゆる感動かごしま大会）が鹿児島県で開催され、8競技131名の選手団を派遣し、個人競技金メダル獲得が51個、銀メダルが29個、銅メダルが11個となり、また、ソフトボール競技では、全国障害者スポーツ大会開始以来、県勢として初めて優勝を果たしました。	・9月頃にレクリエーション大会「手をつなぐスポーツのつどい」を実施 ・5月から千葉県障害者スポーツ大会を開催 ・10月に佐賀県で開催される第23回全国障害者スポーツ大会へ選手団を派遣	「千葉県障害者スポーツ大会」では、計3,413名が参加しました。 第23回全国障害者スポーツ大会（SAGA2024全障スポ）が佐賀県で開催され、7競技106名の選手団を派遣し、個人競技金メダル獲得が47個、銀メダルが24個、銅メダルが14個となり、金メダル獲得数は全国第3位の好成績となりました。	・9月にレクリエーション大会「手をつなぐスポーツのつどい」を実施予定 ・5月から千葉県障害者スポーツ大会を開催予定 ・10月に佐賀県で開催される第24回全国障害者スポーツ大会へ選手団を派遣予定
④該当なし	東京パラリンピック及びパラリンピック後の障害者スポーツの振興、普及啓発活動のため「バラスポーツ部会」を継続設置し、支援体制の強化を図りました。また、有望選手の掘り起こしを行いました。	東京オリンピック・パラリンピック後の障害者スポーツの普及・振興のため、障害者競技組織を継続的に設置し、支援体制の強化	東京パラリンピック及びパラリンピック後の障害者スポーツの振興、普及啓発活動のため「バラスポーツ部会」を継続設置し、支援体制の強化を図りました。また、有望選手の掘り起こしを行いました。	東京オリンピック・パラリンピック後の障害者スポーツの普及・振興のため、障害者競技組織を継続的に設置し、支援体制の強化
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の貸出や教養講座等を実施し、障害者の参加機会の充実を図りました。 R5年度上半期の利用状況は、体育室8,316名（うち障害者3,490名）、多目的室3,531名（うち障害者1,335名）、音楽室1,743名（うち障害者1,101名）、教養文化室1,877名（うち障害者502名）となります。	障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の貸出やセンター独自の教養講座、センター利用者による交流会等を実施	障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の貸出や教養講座等を実施し、障害者の参加機会の充実を図りました。 R6年度上半期の利用状況は、体育室7,640名（うち障害者3,422名）、多目的室3,480名（うち障害者1,332名）、音楽室1,858名（うち障害者770名）、教養文化室1,766名（うち障害者548名）となります。	障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の貸出やセンター独自の教養講座、センター利用者による交流会等を実施
④該当なし	障がい者スポーツ指導員が活動できる場所がない現状があるため、障がい者スポーツ指導員が活動でき、指導員の技能を生かせる体験会や教室をより開催していく必要があります。	5月4日に、千葉県障がい者スポーツ指導者協議会と共催で、「千葉県障がい者スポーツ指導者研修会」を開催	バラスポーツ指導員が活動できる場所がない現状があるため、バラスポーツ指導員が活動でき、指導員の技能を生かせる体験会や教室をより開催していく必要があります。	5月に、千葉県障がい者スポーツ指導者協議会と共催で、「千葉県障がい者スポーツ指導者研修会」を開催予定
④該当なし	海外・国内の遠征や強化合宿、競技用具の整備、ジュニアナショナルチームの選考会や全国大会への派遣、運動能力測定や医療費助成、ドクターやトレーナーの派遣等の医・科学サポート等、パラリンピック出場に向けた継続的な競技力の向上を目指し、強化活動を支援しました。	強化指定による支援 ・選手75名 ・チーム11チーム	海外・国内の遠征や強化合宿、競技用具の整備、ジュニアナショナルチームの選考会や全国大会への派遣、運動能力測定や医療費助成、ドクターやトレーナーの派遣等の医・科学サポート等、パラリンピック出場に向けた継続的な競技力の向上を目指し、強化活動を支援しました。	強化指定による支援 ・選手80名 ・チーム11チーム
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	クラブマネージャー養成講習会を5月27日、6月4日、11日に実施し、8名を養成しました。また、日本スポーツ協会公認資格であるコーチングアシスタントの養成講習を実施し、16名を養成しました。	各講習会の実施時期や実施方法、講座内容、募集内容等の見直しや、県民への周知方法等の検討を行います。	クラブマネージャー養成講習会を5月25日、6月1日、15日に実施し、9名を養成しました。また、日本スポーツ協会公認資格であるスポーツコーチングリーダーの養成講習を実施し、26名を養成しました。	各講習会の実施時期や実施方法、講座内容、募集内容等の見直しや、県民への周知方法等の検討を行います。
④該当なし	各競技団体や関係機関と協力しながら、指導者の養成・確保が促進されるよう組織的に取り組みました。また、スポーツ・インテグリティの推進・促進のために、千葉県高等学校体育連盟、千葉県小中学校体育連盟と連携し、若手指導者の資質向上を目的とした、若手指導者養成研修を支援しました。	若手指導者養成研修会 ・参加者148名	各競技団体や関係機関と協力しながら、指導者の養成・確保が促進されるよう組織的に取り組みました。また、スポーツ・インテグリティの推進・促進のために、千葉県高等学校体育連盟、千葉県小中学校体育連盟と連携し、若手指導者の資質向上を目的とした、若手指導者養成研修を支援しました。	関係団体と連携した若手指導者養成研修会開催の支援
①スポーツが有する価値の中核を知る	ラグビー リーグワン所属のクボタスピアーズ船橋・東京ベイ、バスケットボールBリーグ所属の千葉ジェッツふなばし、両チームを、今年4月に新設した「ちば夢チャレンジ殊勲賞」の第1号として、6月21日に表彰しました。 併せて、同じく4月に創設した「ちば夢チャレンジ功労賞」の第1号として、1月23日に千葉ロッテマリーンズを表彰しました。 また、千葉県にゆかりのある世界体操競技選手権大会男子団体総合で優勝した2名に対し1月17日に、第19回アジア競技大会の各競技で優勝した10名に対し2月9日にそれぞれ千葉県知事賞を授与しました。	・第4回世界弓道大会で優勝した日本代表チームの選手1名に知事賞を授与 ・パリオリンピック・パラリンピックで活躍した選手18名に県民栄誉賞等を授与	第4回世界弓道大会において、優勝を果たした千葉県にゆかりのある日本代表チームの選手1名に対し7月5日に千葉県知事賞を授与しました。 また、パリオリンピック・パラリンピックで活躍した、千葉県にゆかりのある18名に対し千葉県県民栄誉賞等を授与しました。	該当者がした場合には、関係部署と調整しながら表彰を行う

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	R7予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
51	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	千葉県知事表彰	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	スポーツ振興及び県民のふるさと意識の高揚に資することを目的として、千葉県県民栄誉表彰要綱に準じ、スポーツ活動を通じ、広く県民に敬愛され、社会に明るい希望と活力を与えるとともに千葉県の名を高めることに顕著な功績のあった者について表彰します。
52	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	生涯スポーツ功労者・生涯スポーツ優良団体の表彰	356	356	437	420	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	文部科学省において、地域又は職場におけるスポーツの健全な普及及び発展に貢献し、地域におけるスポーツの振興に顕著な成果を上げたスポーツ関係者及びスポーツ団体について、都道府県ごとに決められた枠数の推薦を行います。表彰者が決定後、国において表彰式を実施します。
53	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	競技力向上推進本部表彰	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国民体育大会において功績の顕著な個人又は団体を表彰します。
54	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	いきいきちばっ子コンテスト	-	-	-	-	保健体育課	学校体育班	No.13 A-3「いきいきちばっ子コンテスト」遊・友スポーツランキングちば」に記載
55	D	2	施設の整備と有効活用	ア	施設・設備の整備と有効活用	総合スポーツセンター施設整備事業	599,297	977,863	849,536	259,359	競技スポーツ振興課	施設・調整班	総合スポーツセンターの老朽化した庭球場クラブハウスの整備等を行います。
56	D	2	施設の整備と有効活用	ア	施設・設備の整備と有効活用	総合スポーツセンター体育館整備事業	113,800	247,737	242,628	469,062	競技スポーツ振興課	施設・調整班	体育館の建替に向け、整備検討を進めています。
57	D	2	施設の整備と有効活用	ア	施設・設備の整備と有効活用	公園施設長寿命化対策支援事業	1,024,572	878,960	1,224,501	1,429,646	公園緑地課	県立公園整備班	県立都市公園の施設について、事後的な維持管理から、予防的な維持管理への転換を図るため、千葉県公園施設長寿命化計画に基づく施設の更新等を行う。
58	D	2	施設の整備と有効活用	ア	施設・設備の整備と有効活用	県立学校体育施設開放事業	2,100	2,130	2,190	2,220	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県民の生涯スポーツの推進及び県内のスポーツの普及・振興を図るため、県立学校の体育施設を開放し、県民に広くスポーツをする機会と場所を提供します。また、各開放校の課題・問題・要望等を把握し、「開放校が開放しやすく」「利用者相互が利用しやすい」環境を整備することにより開放を促進し、地域スポーツの推進を図ります。
59	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ア	総合型地域スポーツクラブに対する支援	(総合型地域スポーツクラブに対する支援)	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	No.26 B-1「総合型地域スポーツクラブに対する支援」に記載
60	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ア	総合型地域スポーツクラブに対する支援	バラスポーツへの取組を推進	322	322	322	322	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	バラスポーツの充実・発展を図り、バラスポーツに取り組む総合型スポーツクラブの事業について、千葉県県障がい者スポーツ協会等と連携して支援します。

スポーツを「知る」ことについての整理	R5 取組の成果・課題	R6 取組の実績	R6 取組の成果・課題	R7 取組の見通し
①スポーツが有する価値の中核を知る	ラグビーリーグワン所属のクボタスピアーズ船橋・東京ベイ、バスケットボールBリーグ所属の千葉ジェッツふなばし、両チームを、今年4月に新設した「ちば夢チャレンジ殊勲賞」の第1号として、6月21日に表彰しました。 併せて、同じく4月に創設した「ちば夢チャレンジ功労賞」の第1号として、1月23日に千葉ロッテマリーンズを表彰しました。 また、千葉県にゆかりのある世界体操競技選手権大会男子団体総合で優勝した2名に対し1月17日に、第19回アジア競技大会の各競技で優勝した10名に対し2月9日にそれぞれ千葉県知事賞を授与しました。	・第4回世界弓道大会で優勝した日本代表チームの選手1名に知事賞を授与 ・パリオリンピック・パラリンピックで活躍した選手18名に県民栄誉賞等を授与	第4回世界弓道大会において、優勝を果たした千葉県にゆかりのある日本代表チームの選手1名に対し7月5日に千葉県知事賞を授与しました。 また、パリオリンピック・パラリンピックで活躍した、千葉県にゆかりのある18名に対し千葉県県民栄誉賞等を授与しました。	該当者がいた場合には、関係部署と調整しながら表彰を行う
①スポーツが有する価値の中核を知る	各団体から基準を満たしている方々の推薦をいただきました。今年度につきましては、生涯スポーツ功労者4名、生涯スポーツ優良団体5団体が決定され、令和5年10月13日(金)に中央合同庁舎第7号館3階講堂において表彰式が行われました。	選考会を実施し、功労者4名、優良団体5団体の推薦を決定。 文部科学省へ推薦。	各団体から基準を満たしている方々の推薦をいただきました。今年度につきましては、生涯スポーツ功労者4名、生涯スポーツ優良団体5団体が決定され、令和6年10月18日(金)に中央合同庁舎第7号館3階講堂において表彰式が行われました。	選考会を実施し、功労者4名、優良団体5団体の推薦を決定。 今後、文部科学省へ推薦。
①スポーツが有する価値の中核を知る	特別国民体育大会において功績の顕著な個人及び団体を表彰しました。また、結果等についてHPやメディアを通じて広報活動を実施しました。	優秀競技団体17団体 優秀選手105名 優秀監督26名	第78回国民スポーツ大会において功績の顕著な個人及び団体を表彰しました。また、結果等についてHPやメディアを通じて広報活動を実施しました。	天皇杯または皇后杯入賞を果たした競技団体の他、選手及び監督の表彰
④該当なし	庭球場クラブハウス新築工事を実施しました。 また、老朽化が進んでいる施設の、計画的な改修等を実施しました。	・クラブハウス建替に伴い工事ヤードとして使用したテニスコートの復旧工事 ・老朽化が進んでいる施設の計画的な改修等	クラブハウス建替に伴い工事ヤードとして使用したテニスコートの復旧工事を完了しました。 また、老朽化が進んでいる施設の、計画的な改修等を実施予定です。	・東総運動場陸上競技場改修工事 ・老朽化が進んでいる施設の計画的な改修等
④該当なし	体育館建築工事に係る基本設計、解体設計、地盤調査業務が完了しました。 引き続き、実施設計業務を進めています。	・新体育館の実施設計 ・既存体育館の解体工事	実施設計業務を完了しました。 既存体育館の解体工事に着手しました。	・既存体育館の解体工事 ・新体育館の新築工事発注
④該当なし	千葉県公園施設長寿命化計画に基づき、計画的に施設の更新を行いました。	管理する施設の定期点検を確実に実施するとともに、長寿命化計画に基づき、効率的・効果的に維持修繕を実施	千葉県公園施設長寿命化計画に基づき、計画的に施設の更新を行いました。	管理する施設の定期点検を確実に実施するとともに、長寿命化計画に基づき、効率的・効果的に維持修繕を実施
③スポーツの行い方を知る	71校が開放校として事業を進め、県民からのスポーツ活動の場の確保の問い合わせが多く、場の提供をにつなげることができました。 一方で、教員の働き方改革の中、各県立学校から当事業による負担も声があがってきているため、課題解決に向けて取り組んでいく必要があります。	開放希望のあった県立学校72校を開放校として指定し、開放事業を実施	72校が開放校として事業を進め、県民からのスポーツ活動の場の確保の問い合わせが多く、場の提供をにつなげることができました。 一方で、教員の働き方改革の中、各県立学校から当事業による負担も声があがってきているため、課題解決に向けて取り組んでいく必要があります。	開放希望のあった県立学校を開放校として指定し、開放事業を実施
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	総合型スポーツクラブによるスポーツ体験イベント「スポネットちば2023」において、ちばてんだいSVで、ポッチャ競技大会を行い、バラスポーツの普及と振興を図りました。	総合型地域スポーツクラブを中心に取組を推進	総合型スポーツクラブによるスポーツ体験イベント「スポネットちば2024」において、ちばてんだいSVで、ポッチャ競技大会を行い、バラスポーツの普及と振興を図りました。	総合型地域スポーツクラブを中心に取組を推進

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	R7予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
61	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	イ	情報共有と発信の推進	スポーツ関係団体との情報共有と情報発信の推進	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県スポーツ協会、県スポーツ推進委員連動会、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県レクリエーション協会、県障がい者スポーツ協会等との情報共有・情報発信を行うことで、連携の構築を図ります。
62	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	イ	情報共有と発信の推進	県スポーツ施設指定管理団体への情報提供	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	No.32 B-2「スポーツイベント・多様なスポーツ・スポーツ施設等の情報発信」に記載
63	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	千葉県スポーツ協会の充実と発展	7,383	7,383	7,383	7,383	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	各種事業の推進や事業成果の把握等が効率的に推進できる体制の整備・充実を、市町村や関係団体と連携して支援します。
64	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	千葉県スポーツ推進委員連合会の充実	2,382	2,382	2,382	3,492	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	市町村教育委員会が委嘱するスポーツ推進委員等で組織される地域スポーツ推進の中核団体であり、地域住民と行政を繋ぐコーディネーターとしての役割を担っています。研究大会や指導者研修会の開催を通じて、スポーツ推進委員の資質向上を図ります。
65	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	学校体育団体の充実	高体連 33,856 中体連 10,500 特体連 830 高野連 150	高体連 42,105 中体連 6,786 特体連 830 高野連 150	高体連 39,028 中体連 5,639 特体連 830 高野連 300	高体連 18,024 中体連 18,788 特体連 830 高野連 150	保健体育課	学校体育班	学校体育・スポーツの普及と振興を図るため、学校体育関係団体が行う事業に要する経費を助成します。
66	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	千葉県レクリエーション協会の充実	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	スポーツ・レクリエーションの総合的な普及・振興により、県民の心身の健全な発達と明るく豊かな社会生活づくりを図るため、指導者の育成や資質向上等活動の充実を図ります。
67	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	千葉県障がい者スポーツ協会との連携	65,310	68,036	68,036	66,029	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	千葉県内における障のある人によるスポーツの振興と健康の維持増進を図るため、協会と連携し、障害者スポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施します。
68	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	ア	国民体育大会入賞に向けた選手強化	国体選手強化・サポート事業	108,180	104,590	104,590	107,620	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国民体育大会において男女総合(天皇杯)入賞、女子総合(皇后杯)入賞の成績を取るため、本県国体代表チーム・選手の継続的・計画的な強化活動を推進します。
69	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	イ	未来のアスリートの発掘・育成・強化	ちばジュニア強化事業	67,930	69,710	69,710	66,030	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	ジュニア層(原則小学生～高校生)を対象に素質のある選手の早期発掘と年齢・競技種目等に応じた計画的・継続的指導を行い、未来のアスリートの発掘・育成・強化や指導者の養成・資質向上を図るとともに地域に根ざした競技の推進を目指します。
70	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	イ	未来のアスリートの発掘・育成・強化	WPN(ワールドクラス・パステウェイ・ネットワーク)の活用	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	独立行政法人日本スポーツ振興センターと連携し、選手の発掘・育成に関するあらゆる情報の収集や共有をはじめ、会議での指導助言、研修会の開催等の活動を通じて、県内代表選手から世界で活躍する選手への道筋を構築していきます。
71	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	ウ	世界で活躍する選手の強化・支援	オリンピックアスリート強化・支援事業	11,313	11,700	11,588	18,150	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国体競技ではないが、オリンピックにて実施される競技・種目のトップ選手への支援を行い、オリンピックにおける本県ゆかりのメダリストを輩出することで、県内の競技力の更なる充実を図るとともに、県民に夢と感動を届けます。

スポーツを「知る」ことについての整理	R5 取組の成果・課題	R6 取組の実績	R6 取組の成果・課題	R7 取組の見通し
④該当なし	指導者養成や表彰関係、部活動の地域移行に関すること等、県スポーツ協会、県スポーツ推進委員連合会、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県レクリエーション協会、県障がい者スポーツ協会等との情報共有・情報発信を行い、連携を図りました。	各関係団体との情報共有	指導者養成や表彰関係、部活動の地域移行に関すること等、県スポーツ協会、県スポーツ推進委員連合会、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県レクリエーション協会、県障がい者スポーツ協会等との情報共有・情報発信を行い、連携を図りました。	各関係団体との情報共有
④該当なし	各種事業の推進や事業成果の把握等が効率的に推進できる体制の整備・充実に努め、市町村や関係団体と連携した支援を行いました。	千葉県スポーツ協会実施事業支援	各種事業の推進や事業成果の把握等が効率的に推進できる体制の整備・充実に努め、市町村や関係団体と連携した支援を行いました。	千葉県スポーツ協会実施事業支援
④該当なし	本連合会主催事業は、すべて予定通り開催できました。各事業とも参加者から好評で、研修会等で得た内容を各地域に持ち帰り、共有することにつながっています。次年度に向け県連合会としてのニューノーマルな形が構築できた1年となりました。また、令和6年度の関東研究大会に向けて実行委員会が立ち上がり、企画・準備を進めています。課題としては、各市町村との連絡調整の方法をよりスムーズにできるように検討中です。	県研究大会や指導者研修会を開催し、推進委員の資質向上を図るとともに、千葉県では9年ぶりとなる関東研究大会を開催した	関東研究大会の開催により、1500名を超える関東各都県の参加者を成田市に迎え、大きな盛り上がりを見せて閉会しました。研究大会開催に向けた県内推進委員の協力体制が市町村を超えた活動の連携に結びつきました。県連合会主催事業は全て予定通り開催し、研修会等で得た知見を各地域に持ち帰って共有・伝達するなど、推進委員の日常の活動にも活かされています。各市町村との連絡調整にはなお課題が残るため、より効果的な連絡調整の方法を検討しています。	研究大会や指導者講習会を開催し、推進委員の資質向上を図る
④該当なし	予定通り事業が実施され、取組の目的が達成されました。	各団体において例年どおり各行事が実施されました。また、総体準備班が令和9年度全国高校総体開催に向けた準備を行いました。	大会の運営方法等もコロナ以前に戻り、各団体において予定どおり事業が実施され、取組の目的が達成されました。令和9年度に開催される全国高校総体の県内で行う競技の開催地が決定しました。また、準備委員会を設立し、総会を開催して協議を行いました。	各団体において例年どおり各行事の実施が計画されており、補助金を支出する予定です。
④該当なし	県内の大学を中心に「若手人材育成事業」を展開した結果、千葉県レク大会に多くの学生が参加し、ブースを受け持ってくれました。また、諸会議は書面会議だけでなく、対面での会議も開催することができました。レク・インストラクター養成講習会を（公財）日本レク協会と協働事業で開催することができました。一方、課題として、今後の会議をオンラインでも実施できるようICTシステムの構築を図りたいと考えております。また、HPの充実化をさらに深めて参ります。	多様化する県民のスポーツニーズに対応できるよう、ニュースポーツ等の指導者の育成等を検討	県内の大学を中心に「若手人材育成事業」を展開した結果、千葉県レク大会に多くの学生が参加し、ブースを受け持ってくれました。また、諸会議は書面会議だけでなく、対面での会議も開催することができました。レク・インストラクター養成講習会を（公財）日本レク協会と協働事業で開催することができました。一方、課題として、今後の会議をオンラインでも実施できるようICTシステムの構築を図りたいと考えております。また、HPの充実化をさらに深めて参ります。	多様化する県民のスポーツニーズに対応できるよう、ニュースポーツ等の指導者の育成等を検討
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	千葉県障がい者スポーツ協会と連携し、障害者スポーツの振興を目的として、初級バラスポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施した。	バラスポーツ指導員養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施	千葉県障がい者スポーツ協会と連携し、バラスポーツの振興を目的として、初級バラスポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施しました。	バラスポーツ指導員養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施
④該当なし	国民体育大会において、男女総合成績(天皇杯得点)入賞、女子総合成績(皇后杯得点)入賞の成績を収めるため、本県国体代表チーム・選手の継続的、計画的な強化活動を推進しました。	・国スポ出場選手強化支援(練習・合宿等) ・コーチ及びトレーナー等の派遣	国民スポーツ大会において、男女総合成績(天皇杯得点)入賞、女子総合成績(皇后杯得点)入賞の成績を収めるため、本県国体代表チーム・選手の継続的、計画的な強化活動を推進しました。	・国スポ出場選手強化支援(練習・合宿等) ・コーチ及びトレーナー等の派遣
④該当なし	ジュニア層(原則小学生～高校生)を対象に素質のある選手の早期発掘と年齢・競技種目等に応じた計画的・継続的指導を行うとともに、指導者の養成を図り、地域に根ざした競技の推進を目指した事業を実施しました。	・ジュニア選手強化支援(重点強化・拠点強化・少女強化) ・ジュニア強化選手の指定	ジュニア層(原則小学生～高校生)を対象に素質のある選手の早期発掘と年齢・競技種目等に応じた計画的・継続的指導を行うとともに、指導者の養成を図り、地域に根ざした競技の推進を目指した事業を実施しました。	・ジュニア選手強化支援(重点強化・拠点強化・少女強化支援) ・ジュニア強化選手の指定
④該当なし	独立行政法人日本スポーツ振興センターとの連携により、WPN(ワールドクラス・バスウェイ・ネットワーク)を活用し、選手の発掘・育成に関するあらゆる情報の収集や共有をはじめ、会議での指導助言、研修会の開催等の活動を通じて、県内代表選手から世界で活躍する選手への支援を実施しました。	研修会等の支援 ・スポーツライミング競技選出候補生31名(R6年度 8名選出)	独立行政法人日本スポーツ振興センターとの連携により、WPN(ワールドクラス・バスウェイ・ネットワーク)を活用し、選手の発掘・育成に関するあらゆる情報の収集や共有をはじめ、会議での指導助言、研修会の開催等の活動を通じて、県内代表選手から世界で活躍する選手への支援を実施しました。	競技団体における研修会開催等の支援
①スポーツが有する価値の中核を知る	国体競技ではないが、オリンピックにて実施される競技・種目のトップ選手への支援を行い、オリンピックにおける本県ゆかりのメダリストを輩出することで、県内の競技力の更なる充実を図るため、オリンピック出場に向けた強化活動を支援しました。また、指定書授与式を開催し、ホームページやメディアを通じて広報活動を実施しました。	強化指定による支援 ・選手51名	国スポ競技ではないが、オリンピックにて実施される競技・種目のトップ選手への支援を行い、オリンピックにおける本県ゆかりのメダリストを輩出することで、県内の競技力の更なる充実を図るため、オリンピック出場に向けた強化活動を支援しました。また、指定書授与式を開催し、ホームページやメディアを通じて広報活動を実施しました。	強化指定による支援 ・選手40名

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	R7予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
72	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	E	指導者の養成・確保・資質向上と適正配置	(指導者の養成・確保・資質向上と適正配置)	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	庁内の関係部署と協議をし、指導者確保と適正配置の具体策を検討します。併せて、地域の核となる運動種目に特化した部活動の在り方について検討を進めます。
73	E	2	競技力向上のための環境整備	A	競技用具等整備事業	(競技用具等整備事業)	6,800	8,300	8,300	7,500	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	選手強化に必要な用具等を整備し、選手が高いパフォーマンスを発揮するための環境を整備します。
74	E	2	競技力向上のための環境整備	I	トップチーム支援事業	(トップチーム支援事業)	7,000	6,800	6,800	7,300	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	本県において国民体育大会で活躍し、各競技の主軸となる競技力を有する顕著な企業等の運動部をトップチーム団体として指定し、その主体的な強化活動の支援を推進します。
75	E	2	競技力向上のための環境整備	U	公共スポーツ施設の有効活用	(公共スポーツ施設の有効活用)	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	ジュニア選手や県選抜チーム・選手が効果的・効率的に練習することができるよう、公共スポーツ施設等の優先的使用について、理解と協力を得るよう努めます。
76	E	2	競技力向上のための環境整備	E	選手・指導者の参加条件の整備	(選手・指導者の参加条件の整備)	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	競技力向上事業の推進にあたっては、児童生徒や教員の学校教育活動に支障をきたさぬよう十分配慮しながら、所属長に理解を得られるよう努めます。
77	E	2	競技力向上のための環境整備	O	ICTを活用した新しい強化様式の整備	(ICTを活用した新しい強化様式の整備)	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	新しい生活様式に対応したオンライントレーニングや、オンラインミーティングを行えるようICT環境を整備していきます。
78	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	A	マルチコンディショニングサポート事業	基礎能力測定・障害相談・栄養相談の実施	720	520	206	520	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	スポーツドクター・アスレティックトレーナーによる測定データ解析を実施し、指導者等にフィードバックするとともに、指導者が効果的なトレーニング方法、けがの予防方策等に活用できるような知識や技能の充実に努めます。また、選手の栄養状況調査などを計画的に進め、選手、指導者、保護者等に食生活の在り方等についてサポートする体制を確立します。さらに、スポーツ科学センターの機能の充実と、より専門的な科学的データの蓄積を図ります。
79	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	A	マルチコンディショニングサポート事業	スポーツドクター・アスレティックトレーナー等の派遣	5,805	6,370	6,673	6,840	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員会から推薦されたスポーツドクター・アスレティックトレーナーを国民体育大会や強化活動等に派遣し、選手の健康管理、障害予防、スポーツ外傷の応急措置、リハビリテーション等に対応します。また、競技団体が独自にコンディショニングアップできるように支援します。
80	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	A	マルチコンディショニングサポート事業	メディカルチェックの実施	320	320	355	320	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国体帯同スポーツドクター(公益財団法人千葉県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員)により、国体参加選手が提出した健康診断票及び基本健康診断用紙のチェックを行います。その中で、禁止薬物使用の有無などについてもチェックを行い、ドーピング防止にも努めます。
81	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	A	マルチコンディショニングサポート事業	ドーピング防止啓発活動の普及	255	220	170	220	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	スポーツファーマシストを活用し、アンチ・ドーピングについての理解を深め、ドーピング防止の教育・啓発活動を推進・促進していきます。また、国民体育大会出場選手・監督を対象とした、アンチ・ドーピング研修・講習会を実施します。

スポーツを「知る」ことについての整理	R5 取組の成果・課題	R6 取組の実績	R6 取組の成果・課題	R7 取組の見通し
④該当なし	庁内の関係部署と協議し、指導者確保と適正配置の具体策と国体の成果を踏まえた、地域の核となる運動種目に特化した部活動の在り方について検討を進めました。	指導者確保と適正配置の検討	庁内の関係部署と協議し、指導者確保と適正配置の具体策と国体の成果を踏まえた、地域の核となる運動種目に特化した部活動の在り方について検討を進めました。	指導者確保と適正配置の検討
④該当なし	選手強化に必要な用具等を整備し、選手が高いパフォーマンスを発揮するための環境を整備しました。	強化練習等に必要な競技用具の整備 (5競技団体) ・セーリング ・ローイング ・スポーツクライミング ・馬術 ・バレーボール(ビーチ)	選手強化に必要な用具等を整備し、選手が高いパフォーマンスを発揮するための環境を整備しました。	強化練習等に必要な競技用具の整備 (4競技団体) ・カヌー ・ローイング ・スポーツクライミング ・馬術
④該当なし	本県において国民体育大会で活躍し、各競技の主軸となる競技力を有する顕著な企業等の運動部をトップチーム団体として指定し、その主体的な強化活動の支援を推進しました。	強化指定による支援 ・18競技38団体	本県において国民スポーツ大会で活躍し、各競技の主軸となる競技力を有する顕著な企業等の運動部をトップチーム団体として指定し、その主体的な強化活動の支援を推進しました。	強化指定による支援 ・18競技38団体
④該当なし	ジュニア選手や県選抜チーム・選手が効果的・効率的に練習することができるよう、公共スポーツ施設等の優先的使用について、理解と協力を得ながら、施設の有効活用を進めました。	公共スポーツ施設の優先・有効活用 ・県総合スポーツセンター ・県国際総合水泳場	ジュニア選手や県選抜チーム・選手が効果的・効率的に練習することができるよう、公共スポーツ施設等の優先的使用について、理解と協力を得ながら、施設の有効活用を進めました。	公共スポーツ施設の優先・有効活用 ・県総合スポーツセンター ・県国際総合水泳場
④該当なし	競技力向上事業の推進にあたって、児童生徒や教員の学校教育活動に支援をきたさぬよう十分配慮しながら、所属長に競技会等への参加について、可能な限り配慮いただけるよう依頼しました。	協力依頼文の送付等、協力依頼	競技力向上事業の推進にあたって、児童生徒や教員の学校教育活動に支援をきたさぬよう十分配慮しながら、所属長に競技会等への参加について、可能な限り配慮いただけるよう依頼しました。	協力依頼文の送付等、協力依頼
④該当なし	新しい生活様式に対応したオンライントレーニングや、オンラインミーティングを行えるよう、ICT環境の整備に努めました。	ICT環境の整備	新しい生活様式に対応したオンライントレーニングや、オンラインミーティングを行えるよう、ICT環境の整備に努めました。	ICT環境の整備
④該当なし	千葉県スポーツ科学センターにおける測定、データ解析を実施し、選手・指導者等にフィードバックするとともに、効果的なトレーニング方法、けがの予防対策等に活用できる知識や技能の充実を図りました。併せて、アスレティックトレーナーによる障害相談、管理栄養士による栄養指導、スポーツファーマシスト(薬剤師)によるドーピング防止啓発活動を行いました。さらに、スポーツ科学センターの機能の充実に努め、より専門的な科学的データの蓄積を図るとともに、活用について研修会を開催しました。	運動能力測定実施 ・5競技57名 体力測定の実用に係る研修会の開催	千葉県スポーツ科学センターにおける測定、データ解析を実施し、選手・指導者等にフィードバックするとともに、効果的なトレーニング方法、けがの予防対策等に活用できる知識や技能の充実を図りました。併せて、アスレティックトレーナーによる障害相談、管理栄養士による栄養指導、スポーツファーマシスト(薬剤師)によるドーピング防止啓発活動を行いました。さらに、スポーツ科学センターの機能の充実に努め、より専門的な科学的データの蓄積を図るとともに、活用について研修会を開催しました。	競技団体における運動能力測定の推進
④該当なし	県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員会から推薦されたスポーツドクター・アスレティックトレーナーを国民体育大会や強化活動等に派遣し、選手の健康管理、障害予防、スポーツ外傷の応急措置、リハビリテーション等に対応するとともに、競技団体が独自にコンディショニングアップできるように支援しました。	トレーナー等の派遣 ・強化練習等 13競技172回 ・国スポ関東ブロック大会 17競技34人 ・国スポ本大会 17競技29人	県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員会から推薦されたスポーツドクター・アスレティックトレーナーを国民体育大会や強化活動等に派遣し、選手の健康管理、障害予防、スポーツ外傷の応急措置、リハビリテーション等に対応するとともに、競技団体が独自にコンディショニングアップできるように支援しました。	トレーナー等の派遣 ・強化練習等 ・国スポ関東ブロック大会 ・国スポ本大会
④該当なし	国体帯同スポーツドクター(公益財団法人千葉県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員)により、国体参加選手が提出した健康診断票及び問診票のチェックを行いました。その中で、禁止薬物使用の有無などについてもチェックを行い、ドーピング防止にも取り組みました。	メディカルチェックの実施 ・国スポ本大会 425人 ・国スポ冬季大会 30人	国スポ帯同スポーツドクター(公益財団法人千葉県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員)により、国スポ参加選手が提出した健康診断票及び問診票のチェックを行いました。その中で、禁止薬物使用の有無などについてもチェックを行い、ドーピング防止にも取り組みました。	メディカルチェックの実施 ・国スポ本大会 ・国スポ冬季大会
④該当なし	スポーツファーマシスト競技担当制を整備するとともに、スポーツファーマシストを活用し、アンチ・ドーピングについての理解を深め、ドーピング防止の教育・啓発活動を推進・促進しました。また、国民体育大会出場選手・監督を対象とした、アンチ・ドーピング研修・講習会を実施しました。	アンチ・ドーピング研修会 ・参加者31名 ドーピング防止講習会 ・参加者82名 競技団体別ドーピング防止講習会 ・5競技217人	スポーツファーマシスト競技担当制を整備するとともに、スポーツファーマシストを活用し、アンチ・ドーピングについての理解を深め、ドーピング防止の教育・啓発活動を推進・促進しました。また、国民スポーツ大会出場選手・監督を対象とした、アンチ・ドーピング研修・講習会を実施しました。	研修会や講演会の開催 ・アンチドーピング研修会 ・ドーピング防止研修会

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	R7予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
82	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	ア	マルチコンディショニングサポート事業	女性アスリート強化・支援の充実	900	600	385	600	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	女性アスリートに必要なスポーツ医・科学サポートや、コンディショニング等に関する研修・講習会、スポーツに関する相談会を実施します。また、育児との両立を図りながら、競技力の向上を可能にしていける環境づくりを整備していきます。
83	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	ア	マルチコンディショニングサポート事業	その他の活動	0	0	0	0	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	強化練習会、強化合宿、県外遠征、招聘試合等において新型コロナウイルス感染者を発生させないために、競技団体ごとに感染防止対策マニュアルの作成及び見直しを行い、感染防止対策を支援していきます。
84	E	4	組織・調査等の充実	ア	各種会議の充実	千葉県競技力向上推進本部会議等の開催	898	1,440	806	1,440	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	計画的な強化施策を推進するために、本部会議、総務企画部会、普及育成強化部会、パラアスリート部会等を開催し、県全体で競技力向上施策の着実な具現化に努めます。
85	E	4	組織・調査等の充実	ア	各種会議の充実	研修等による組織力の向上	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	ヘッドコーチやジュニア強化等の担当者会議を開催し、研修を充実させ、効率的・効果的な強化活動の展開に努めます。また、スポーツ・インテグリティ推進・促進のために、組織のコンプライアンス体制の整備と、ガバナンスの強化を図ります。
86	E	4	組織・調査等の充実	ア	各種会議の充実	国体選手選考・強化活動調査事業	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	本県競技力の現状把握、他県の戦力分析、国体代表選手団の選考等のため、競技力向上委員会を開催します。 また、強化活動視察(通年)として大会会場や強化事業会場等への激励および視察を引き続き実施します。国体選手、監督、コーチの競技力把握と分析、競技団体との連携を図ります。 さらに、戦力分析会議を実施し、本県競技力の現状把握や他県の強化施策の分析を行い、その結果を基に、競技団体へ指導・助言を行います。
87	E	4	組織・調査等の充実	イ	各種表彰と広報活動の充実	優秀選手及び優秀監督の表彰	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	No.52 D-1「表彰制度の活用」に記載
88	E	4	組織・調査等の充実	イ	各種表彰と広報活動の充実	広報活動の充実	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	競技力向上推進本部事業、国民体育大会の結果等のパンフレットを作成し、配布します。また、インターネット等、各種メディアを利用した広報活動を実施します。
89	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	ア	競技スポーツへの参加(する・みる・ささえる)の裾野拡大	(競技スポーツへの参加(する・みる・ささえる)の裾野拡大)	9,645	9,645	9,645	9,645	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	千葉県民体育大会の開催及び各競技会でのサブイベントの実施に対し、積極的支援を行っていきます。また、国民体育大会千葉県大会(国体予選)開催の充実を図っていきます。
90	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	イ	トップアスリート等活用事業	(トップアスリート等活用事業)	1,089	1,100	1,442	1,800	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより選手強化事業の成果を地域スポーツに還元するとともに、更なるスポーツの推進を図ります。
91	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	ウ	アスリートキャリア開発	(アスリートキャリア開発)	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国体選手等の本県への就職を支援し、スポーツキャリアを活かしたセカンドキャリアへの移行を進めるため、調査・研究、ヒアリング等を行います。

スポーツを「知る」ことについての整理	R5 取組の成果・課題	R6 取組の実績	R6 取組の成果・課題	R7 取組の見通し
④該当なし	女性アスリートに必要なスポーツ医・科学サポートや、コンディショニング等に関する研修・講習会を実施しました。また、育児との両立を図りながら、競技力の向上を可能にしていける環境づくりの整備に努めました。	女性アスリート強化・支援研修会 ・参加者87名 育児サポート支援 ・馬術競技で支援1名 Jr.女子アスリート強化月間 ・スポーツクライミング競技で実施 参加者8名	女性アスリートに必要なスポーツ医・科学サポートや、コンディショニング等に関する研修・講習会を実施しました。また、育児との両立を図りながら、競技力の向上を可能にしていける環境づくりの整備に努めました。Jr.女子強化に向けて、能力測定とコンディショニングに関する講義、栄養講座を実施しました。	・研修会や講演会の開催 ・育児サポート支援体制の整備
④該当なし	各種研修会等において、新型コロナウイルス感染防止対策の経験を活かし、様々な感染症対策を講じることができました。	各研修会等における感染拡大防止啓発活動の実施	各種研修会等において、新型コロナウイルス感染防止対策の経験を活かし、様々な感染症対策を講じることができました。	必要に応じて感染防止対策の支援
④該当なし	計画的な強化施策を推進するために、本部会議、総務企画部会、普及育成強化部会、パラアスリート部会等を開催し、県全体で競技力向上施策を具体的に検討しました。	各種会議等の開催・本部会議 年1回 ・総務企画部会 年1回・普及育成部会 年2回・パラアスリート部会 年1回	計画的な強化施策を推進するために、本部会議、総務企画部会、普及育成強化部会、パラアスリート部会等を開催し、県全体で競技力向上施策を具体的に検討しました。	各種会議等の開催 ・本部会議 ・総務企画部会 ・普及育成強化部会 ・パラアスリート部会
④該当なし	ヘッドコーチやジュニア強化等の担当者会議を開催し、研修を充実させ、効率的・効果的な強化活動の展開に努めました。また、スポーツ・インテグリティ推進・促進のために、組織のコンプライアンス体制の整備・ガバナンスの強化やスポーツハラスメント防止への意識の向上を図りました。	各種会議等の開催 ・国スポ対策委員会総会 参加者194名 ・強化、派遣担当者会議 参加者115名	ヘッドコーチやジュニア強化等の担当者会議を開催し、研修を充実させ、効率的・効果的な強化活動の展開に努めました。また、スポーツ・インテグリティ推進・促進のために、組織のコンプライアンス体制の整備・ガバナンスの強化やスポーツハラスメント防止への意識の向上を図りました。	各種会議等の開催 ・国スポ対策委員会総会 ・強化、派遣担当者会議
④該当なし	本県競技力の現状把握、他県の戦力分析、国体代表選手団の選考等のため、競技力向上委員会を開催しました。また、強化活動視察（通年）として大会会場や強化事業会場等への激励および視察を行い、国体選手、監督、コーチの競技力把握と分析、競技団体との連携を図りました。さらに、戦力分析会議を実施し、本県競技力の現状把握や他県の強化施策の分析を行い、その結果を基に、競技団体へ指導・助言を行いました。	各種会議等の開催 ・競技力向上委員会 年14回 ・戦力分析会議 年2回	本県競技力の現状把握、他県の戦力分析、国スポ代表選手団の選考等のため、競技力向上委員会を開催しました。また、強化活動視察（通年）として大会会場や強化事業会場等への激励および視察を行い、国スポ選手、監督、コーチの競技力把握と分析、競技団体との連携を図りました。さらに、戦力分析会議を実施し、本県競技力の現状把握や他県の強化施策の分析を行い、その結果を基に、競技団体へ指導・助言を行いました。	各種会議等の開催 ・競技力向上委員会 ・戦力分析会議
①スポーツが有する価値の中核を知る	競技力向上推進本部事業、国民体育大会の結果等のパンフレットを作成し、配布しました。また、インターネット等、各種メディアを利用した広報活動を実施しました。	・国スポリーフレット配布数 6,500部 ・県教委ニュース掲載回数 8回 ・HPのアクセス数 18,143回（令和6年度）	競技力向上推進本部事業、国民スポーツ大会の結果等のパンフレットを作成し、配布しました。また、インターネット等、各種メディアを利用した広報活動を実施しました。	・国スポリーフレット作成 ・県教委ニュース掲載 ・HPの充実
③スポーツの行い方を知る	千葉県民体育大会の開催及び各競技会でのサブイベントの実施に対し、積極的支援を行いました。サブイベントでは参加者が多様なスポーツ競技に触れ、その魅力や楽しさを理解することができました。また、国民体育大会千葉県大会（国体予選）開催の充実を図りました。	千葉県民スポーツ大会 ・16市1町1郡開催 参加者8,281名 ・サブイベント6競技 千葉県民スポーツ大会第2部（国スポ予選） ・実施競技40競技	千葉県民スポーツ大会の開催及び各競技会でのサブイベントの実施に対し、積極的支援を行いました。サブイベントでは参加者が多様なスポーツ競技に触れ、その魅力や楽しさを理解することができました。また、国民スポーツ大会千葉県大会（国スポ予選）開催の充実を図りました。	千葉県民スポーツ大会、千葉県民スポーツ大会第2部（国スポ予選）開催の充実
③スポーツの行い方を知る	オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより選手強化事業の成果を地域スポーツに還元し、スポーツの推進を図りました。参加した児童・生徒は競技に関する理解を深めることができました。	トップアスリート等活用事業 ・実施回数27回 ・講師派遣48名	オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより選手強化事業の成果を地域スポーツに還元し、スポーツの推進を図りました。参加した児童・生徒は競技に関する理解を深めることができました。	トップアスリート等活用事業の充実
④該当なし	国体選手等の本県への就職を支援し、スポーツキャリアを活かしたセカンドキャリアへの移行を進めるため、調査・研究、ヒアリング等を行いました。	アスリートの就職支援の調査・研究 ・企業とアスリートとのマッチング0件	国スポ選手等の本県への就職を支援し、スポーツキャリアを活かしたセカンドキャリアへの移行を進めるため、調査・研究、ヒアリング等を行いました。	アスリートの就職支援の調査・研究

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	R7予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
92	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	エ	国際スポーツ交流への協力	国際スポーツ競技大会支援事業	0	10,000	10,000	10,000	生涯スポーツ振興課	企画調整班	県内で開催される国際スポーツ大会についてその経費の一部を助成します。 国際競技団体等が主催する大会を対象とし、本県のスポーツの振興、地域の活性化、魅力発信に資するため、大会への参加国数や見込み観戦者数、地域貢献の取組等の基準により、審査を行い、補助を決定します。
93	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	オ	教育・研修プログラムの推進	(教育・研修プログラムの推進)	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	アスリートや関係者一人一人が主体的にスポーツ・インテグリティの意義を理解し、スポーツの価値を守り、高める役割を担う者として適切に行動できるよう、専門家の協力を得ながら、主体的かつ能動的な学習を促す効果的な教育プログラムを推進・促進していきます。
94	F	1	アスリートと連携したスポーツの価値の発信	ア	トップ・プロスポーツ連携事業	ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	No.8 A-2「ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業」に記載
95	F	1	アスリートと連携したスポーツの価値の発信	ア	トップ・プロスポーツ連携事業	ちば夢チャレンジ☆バスポート・プロジェクト	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	子どもたちがスポーツ選手への夢や憧れを抱くことができるよう、千葉ロッテマリーンズ、千葉ジェッツふなばし、ジェフ・ユナイテッド市原・千葉、NECグリーンロケッツ東葛、千葉ゼルバ等のトップ・プロスポーツチームと共同で、県内在学の小学生とその保護者を公式戦へ招待するとともに、キャリア体験プログラムを実施します。
96	F	1	アスリートと連携したスポーツの価値の発信	イ	トップ・プロスポーツ連絡協議会	(トップ・プロスポーツ連絡協議会)	205	255	229	354	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	トップ・プロスポーツチームが掲げている活動拠点における地域貢献の取組みに対して積極的な連携を図るため、平成24年5月にプロスポーツチームとアマチュアスポーツにより立ち上げた組織と連携し、学校や地域を繋ぐシステムの構築を目指す「千葉県トップ・プロスポーツ連絡協議会」を開催します。
97	F	2	地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信	ア	交流機会の創出	ちばアクアラインマラソンの開催	49,000	136,900	100,791	57,500	生涯スポーツ振興課	ちばアクアラインマラソン準備室	「スポーツの振興」と「千葉県の魅力発信」を二本柱とした大会を開催し、多くの人たちに千葉県と東京湾アクアラインの魅力を知ってもらうことで、人や物の交流を基とした地域活性化を図るため、東京湾アクアラインをコースの一部とした「海の上を走るマラソン」大会である「ちばアクアラインマラソン」を開催します。
98	F	2	地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信	ア	交流機会の創出	スポーツツーリズムの推進	6,991	100,000	53,685	100,000	観光政策課	新たな観光推進室	中長期的な観光需要を拡大するため、市町村や観光に携わる民間事業者等が実施する、宿泊客の増加や観光消費額の拡大に資する計画的で継続性のある広域的な取組に対し、経費の一部を助成します。
99	F	2	地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信	イ	積極的な関わりの促進	スポーツボランティア活動の推進	0	13,424	10,835	0	生涯スポーツ振興課	ちばアクアラインマラソン準備室	ちばアクアラインマラソンを「ささえる」スポーツボランティアの活動をとおして、スポーツを支える大切さと喜びを感じ、「する・みる・ささえる」スポーツの推進を図る。
100	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	ア	オリンピック・パラリンピック教育の継承	心のバリアフリー教育推進事業	6,200	6,200	5,584	0	教育政策課	政策室	これまでのオリンピック・パラリンピックを活用した教育を無形のレガシーとして、引き続き、共生社会の形成を目指して、児童生徒がバラスポーツの楽しさ、ボランティア精神、障害のある方への理解等を身につけられるよう推進します。 (1)教員の資質向上の取組 (2)児童生徒の意識向上と家庭・地域等への普及啓発の取組 (3)更なる発展・継続するための取組

スポーツを「知る」ことについての整理	R5 取組の成果・課題	R6 取組の実績	R6 取組の成果・課題	R7 取組の見通し
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	レスリングについて県内での国際大会開催の情報を得ていたところですが、同競技の国際団体が海外での大会開催を決定したため、令和5年度の補助はありませんでした。 引き続き、本制度について、周知を行います。	2024 Asia Triathlon Para Cup Chiba: 10,000千円	稲毛海浜公園及び公園周辺にて開催された2024 Asia Triathlon Para Cup Chibaに補助を行いました。当大会は県内初開催の国際大会であり、海外5か国（アメリカ、フランス、フィリピン、台湾、キルギス）から選手が参加しました。観戦者は約6,000人おり、稲毛海浜公園がトライアスロンに適した会場であるという認知度の向上に寄与したと考えられます。また、地域貢献の一環として、大会開催に合わせて、稲毛海浜公園近隣の小学校にてパラトライアスロン選手を講師として招き、パラトライアスロンやバラスポーツ、障害者支援に関する理解向上を目的に、講演と競技体験が行われました。	国際スポーツ競技大会の県内開催を検討している団体等の情報があるため、助成に向けて相談対応及び調整を行う。
④該当なし	アスリートや関係者一人一人が主体的にスポーツ・インテグリティの意義を理解し、スポーツの価値を守り、高い役割を担う者として適切に行動できるよう、専門家の協力を得ながら、主体的かつ能動的な学習を促す効果的な教育プログラムを推進・促進に努めました。	効果的教育プログラムの推進	アスリートや関係者一人一人が主体的にスポーツ・インテグリティの意義を理解し、スポーツの価値を守り、高める役割を担う者として適切に行動できるよう、専門家の協力を得ながら、主体的かつ能動的な学習を促す効果的な教育プログラムを推進・促進に努めました。	効果的教育プログラムの推進
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	子どもたちがスポーツ選手への夢や憧れを抱くことができるよう、トップ・プロスポーツチームの千葉ロッテマリーンズ、千葉ジェッツふなばし、ジェフ・ユナイテッド市原・千葉、NECグリーンロケッツ東葛、千葉ゼルバ、アルティエリ千葉等と共同で、県内在学の小学生とその保護者を公式戦へ招待するとともに、キャリア体験プログラム等を実施しました。	合計7チームにおいて、公式戦の観戦を実施	子どもたちがスポーツ選手への夢や憧れを抱くことができるよう、トップ・プロスポーツチームの千葉ロッテマリーンズ、千葉ジェッツふなばし、ジェフ・ユナイテッド市原・千葉、NECグリーンロケッツ東葛、千葉ゼルバ、アルティエリ千葉等と共同で、県内在学の小学生とその保護者を公式戦へ招待するとともに、キャリア体験プログラム等を実施しました。令和6年度からクボタスピアーズが新たに参入しました。	合計7チームにおいて、公式戦の観戦を実施
④該当なし	トップ・プロスポーツ連絡協議会において、各チームが近年の実績や課題について活発に意見交換する様子が見られました。令和5年第1回協議会においては、オブザーバーとして柏レイゾル関係者を招きました。	合計で11チームで構成される「千葉県トップ・プロスポーツ連絡協議会」を年2回（6月、2月）開催予定	トップ・プロスポーツ連絡協議会において、各チームが近年の実績や課題について活発に意見交換する様子が見られました。令和6年協議会においては、オブザーバーとして浦安0-Rocks関係者を招きました。	合計で11チームで構成される「千葉県トップ・プロスポーツ連絡協議会」を年2回（6月、2月）開催予定
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	令和5年9月7日にちばアクアラインマラソン実行委員会総会を開催し、「スポーツの振興」と「千葉県の魅力発信」を大会コンセプトの二本柱とし令和6年11月10日（日）に第6回目の開催となるちばアクアラインマラソン2024を開催することを決定しました。大会開催に向けて、関係機関と連携し、準備を進めます。	令和6年11月10日（日） ちばアクアラインマラソン2024実施	令和6年11月10日に「ちばアクアラインマラソン2024」を開催し、海外からの参加者279名を含めた約1万7千人のランナーをはじめ、親子や車いすの方などを対象とした「ファンラン」や東京湾 アクアラインの上だけを走る特別プランによりランナー以外の方々にも「海の上を走る」爽快感を味わっていただきました。 コース沿道には27万人の方々が観戦に訪れ、地元の子どもたちや企業に多彩な応援で盛り上げていただくとともに、約4,400名のボランティアの方に給水・給食や通訳などの活動に参加いただくなど、多くの人に支えられた大会になりました。 また、イベント会場では、県内各地の観光案内や県産品を使用した黒アヒージョなどのグルメ、鉢子や太鼓などの郷土芸能といった本県の魅力を、多くの皆様に満喫していただきました。	ちばアクアラインマラソン実行委員会総会において、次回大会の開催の可否を決定予定。
④該当なし	中長期的な観光需要を拡大するため、市町村や観光に携わる民間事業者等が実施する、継続性のある広域的な4つの取組に対し、経費の一部を助成しました。 令和5年度は、スポーツツーリズムの推進をテーマとする事業の採択には至りませんでした。	活用事業者数：7	中長期的な観光需要を拡大するため、市町村や観光に携わる民間事業者等が実施する、継続性のある広域的な7つの取組に対し、経費の一部を助成しました。 令和6年度は、スポーツツーリズムの推進をテーマにした取組についても採択され、事業を実施しております。	審査会の結果を踏まえ、採択事業を決定する。
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る	令和6年11月10日（日）「ちばアクアラインマラソン2024」開催を決定しました。現在、ちばアクアラインマラソンをささえるスポーツボランティアの具体的な募集計画を検討しており、次回大会に向けては、より多くの地元を中心とした企業ボランティアの参画を呼びかける予定です。スポーツを支える大切さと喜びを感じ、「する・みる・ささえる」スポーツの推進を進めます。	・令和6年9月～10月 ボランティア説明会実施 ・令和6年11月10日（日） ちばアクアラインマラソン2024 ボランティア活動	大会へは地元自治会、企業、学生等から約4,400人のボランティアが参加し、ちばアクアラインマラソンを「ささえる」スポーツボランティアの活動をととして、スポーツを支える大切さと喜びを感じ、「する・みる・ささえる」スポーツの推進を図りました。	ちばアクアラインマラソン実行委員会総会において、次回大会の開催の可否を決定予定。
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	(1)児童生徒、保護者、地域住民等への教育や理解の推進のため、教員の資質向上を図るオンライン研修を実施し、1158名が受講しました。アンケート結果では98%以上が「とても参考になった」、「参考になった」との回答がありました。引き続き研修等の充実を図っていきます。 (2-1)地域拠点校に小17校、中11校、県立学校12校を指定し、心のバリアフリー教育を地域等へ普及することができました。 (2-2)日本財団バラスポーツサポートセンターと連携し、県内の100校にパラアスリート等を講師として、バラスポーツ体験や交流を行いました。来年度も本事業に応募し、実施したいと考える学校が多くなっています。 (3)優れた実践について表彰を行いました。実践内容について県ホームページや県教委ニュース等で積極的に広報することができました。	(1)オンラインセミナーの実施（各市町村教育委員会担当者1名以上、公立学校の教職員1名以上受講） (2-1)地域拠点校を37校指定 (2-2)バラスポーツの体験等を100校実施 (3)グッドプラクティスの顕彰	(1)児童生徒、保護者、地域住民等への教育や理解の推進のため、教員の資質向上を図るオンライン研修を実施し、1052名が受講しました。アンケート結果では98%以上が「とても参考になった」、「参考になった」との回答がありました。 (2-1)地域拠点校に小20校、中8校、県立学校9校を指定し、心のバリアフリー教育を地域等へ普及することができました。 (2-2)日本財団バラスポーツサポートセンターと連携し、県内の100校にパラアスリート等を講師として、バラスポーツ体験や交流を行いました。 (3)優れた実践について表彰を行う予定です。実践内容等について県ホームページや県教委ニュース等で積極的に広報することができました。	オリパラ教育がある程度根付くまでの3年程度、時限的に実施してきたが、バラスポーツ体験に関しては、生涯スポーツ振興課において、パラアスリート等学校訪問事業を実施していることから事業は終了となる。

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	R7予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
101	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	ア	オリンピック・パラリンピック教育の継承	特別支援学校におけるパラスポーツ推進事業	-	-	-	-	特別支援教育課	教育課程指導室	パラスポーツを推進していくことを通じて、スポーツを楽しむ経験を通じた障害への理解を深め、共生社会の実現を目指します。
102	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	イ	競技団体等との学校における連携事業	競技団体等との連携した学校訪問	1,671	1,950	1,911	2,080	生涯スポーツ振興課	企画調整班	東京2020大会を契機とする県内開催競技を始めとしたスポーツの普及・振興に向けて、千葉県内の学校において、競技団体と連携し、アスリートを講師役として競技説明・紹介及び競技体験を実施します。
103	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	イ	競技団体等との学校における連携事業	JOCオリンピック教室	1,555	2,140	1,379	2,140	生涯スポーツ振興課	企画調整班	オリンピック教育の推進を図るため、県内の公立中学校において、JOCオリンピック教室(※)を実施します。 (※)JOCオリンピック教室とは、オリンピック(オリンピック出場経験のあるアスリート)が教師役となり、自身の様々な経験を通して、生徒たちにオリンピックの価値等を伝えるとともに、この価値がオリンピックだけでなく、多くの人々が共有し、日常生活にも生かすことのできるものであることを、授業を通して学習してもらおうプログラム。
104	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	ウ	ホストタウン相手国等との国際理解・国際交流の促進	オランダ王国との国際交流の促進	-	5,000	305	5,000	生涯スポーツ振興課	企画調整班	国内およびアジア近郊で開催される国際大会に向けた、オランダ代表チームの事前キャンプの受入れと、その際の県民との交流事業の実施に向けた調整を行います。
105	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	ウ	ホストタウン相手国等との国際理解・国際交流の促進	ドイツ・デュッセルドルフ市、台湾・桃園市とのスポーツ交流の継続	0	0	0	0	生涯スポーツ振興課	企画調整班	ドイツ・デュッセルドルフ市及び台湾・桃園市との、スポーツ交流を通じた競技力の向上や国際交流の推進を図ります。 デュッセルドルフ市はテニスと卓球、桃園市は卓球について、中学・高校生以下を中心とした選抜選手の相互派遣の実現に向けた交渉・調整を行います。 (予算額は、千葉県卓球連盟が行う桃園市とのスポーツ交流事業に要する経費への補助金)
106	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	エ	マリンスポーツを活用した地域の魅力向上	(マリンスポーツを活用した地域の魅力向上)	9,991	10,000	9,637	10,520	生涯スポーツ振興課	企画調整班	東京2020大会を契機として、スポーツの魅力が再認識されたことを踏まえ、県内の豊かな自然を活かしたサーフィンなどのスポーツと、その地域に根差す文化や食材などの魅力を組み合わせた体験ができるようにすることで、本県でスポーツに親しむ人を増やし、地域の活性化を推進します。
107	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	オ	「新たなスポーツ」の周知・研究	(「新たなスポーツ」の周知・研究)	12,184	6,000	5,187	7,000	生涯スポーツ振興課	企画調整班	あらゆる人がスポーツを楽しめるよう、障害の有無や年齢等に関係なく様々な人が一緒にできるユニバーサルスポーツ、BMXやスケートボード等のアーバンスポーツ、体の動きに連動して画面の上のAvatarが動くバーチャルスポーツ等、新しい分野のスポーツの研究に取り組みます。

スポーツを「知る」ことについての整理	R5 取組の成果・課題	R6 取組の実績	R6 取組の成果・課題	R7 取組の見通し
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	東京パラリンピック競技大会の成果をレガシーとして本県に定着させていくために、パラスポーツをととした交流及び共同学習を実施しました。また、各県立特別支援学校で貸出し可能なパラスポーツ用具について、パンフレットを修正し、関係機関へ配布しました。	(1)パラスポーツ推進のため、パラスポーツをととした交流の実施 (2)地域へのパラスポーツ用具の貸出	東京パラリンピック競技大会の成果をレガシーとして本県に定着させていくために、パラスポーツをととした交流を実施しました。また、各県立特別支援学校で貸出し可能なパラスポーツ用具について、パンフレット等を活用し関係機関に周知しました。	(1)学校間交流等におけるパラスポーツの活用 (2)地域へのパラスポーツ用具の貸出
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	東京2020大会で県内で開催されたサーフィン、フェンシングの普及・振興に向けて以下のとおり学校訪問を実施しました。 サーフィン学校訪問では、プロサーファー等を講師として、長生地域の小学校8校で341名を対象に、プールでサーフボードを使用したバドリング・スタンディングを体験する学校訪問を実施しました。 フェンシング学校訪問では、オリンピック金メダリストを講師として、県内各教育事務所管内で1校ずつ、計5校の小中学校で550名を対象に、素早い模造剣を用いたスマートフェンシングによるフェンシング体験会を実施しました。 これらにより、スポーツの価値（サーフィン、フェンシングの楽しさ）、効果（達成感、爽快感）、行い方（技術、楽しみ方）を伝えました。	・フェンシング学校訪問：各教育事務所管内の小・中学校で1校ずつ、計5校で実施 ・サーフィン学校訪問：長生地域の小学校7校（別途1校雨天中止）、旭市の小学校1校、鴨川市の小学校1校で実施	東京2020大会の際、県内で開催されたサーフィン、フェンシングの普及・振興に向けて以下のとおり学校訪問を実施しました。 サーフィン学校訪問では、プロサーファー等を講師として、長生地域の小学校7校、旭市の小学校1校、鴨川市の小学校1校で436名を対象に、プールでサーフボードを使用したバドリング・スタンディングを体験する学校訪問を実施しました。 フェンシング学校訪問では、オリンピック金メダリストを講師として、県内各教育事務所管内で1校ずつ、計5校の小中学校で354名を対象に、素早い模造剣を用いたスマートフェンシングによるフェンシング体験会を実施しました。 これらにより、スポーツの価値（サーフィン、フェンシングの楽しさ）、効果（達成感、爽快感）、行い方（技術、楽しみ方）を伝えました。	・フェンシング学校訪問：各教育事務所管内の小・中学校で1校ずつ、計5校で実施予定。 ・サーフィン学校訪問：長生地域の小学校8校程度及び長生地域以外の地域の小学校2校程度で実施予定。
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る	「オリンピズム（オリンピック精神）」や「オリンピックの価値（バリュー）」を身近なものとして認識し、より身近に感じてもらうため、オリンピック教育の推進を図るため、JOCと連携し、県内公立中学校6校においてJOCオリンピック教室を実施しました。教室では、生徒達が教師役であるオリビアン（オリビアン）の授業を通じて、スポーツの価値（運動の楽しさ）、効果（オリンピックの精神や価値、フェアプレイ精神）を熱心に学ぶ様子が見られました。	(1)鴨川市立安房東中学校 6/21 (2)千葉市立泉谷中学校 6/24-25 (3)大網白里市立白里中学校 9/20 (4)流山市立西初石中学校 12/2-3 (5)浦安市立富岡中学校 1/23-24 (6)匝瑳市立八日市場第二中学校 2/19	「オリンピズム（オリンピック精神）」や「オリンピックの価値（バリュー）」を身近なものとして認識し、より身近に感じてもらうため、オリンピック教育の推進を図るため、JOCと連携し、県内公立中学校6校においてJOCオリンピック教室を実施しました。教室では、生徒達が教師役であるオリビアン（オリビアン）の授業を通じて、スポーツの価値（運動の楽しさ）、効果（オリンピックの精神や価値、フェアプレイ精神）を熱心に学ぶ様子が見られました。	各教育事務所管内及び千葉市教育委員会管内の中学校で1校ずつ、計6校で実施予定。
②スポーツの効果を知る	令和6年5月に開催される「神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会」に向けてオランダ代表チームから県内で事前キャンプを行う意向が示されました。 受け入れるにあたり、練習場として千葉県総合スポーツセンターの陸上競技場やトレーニングルームを手配しました。 また、県民とオランダ代表チームとの交流事業を実施するために、総合スポーツセンターとの調整を行いました。	・事前キャンプ 5/8から5/15にかけてオランダ代表チーム（選手8名、スタッフ4名）を受け入れ、5/12に交流事業を実施しました。交流では、オランダ代表チームの練習の見学や、「かけっこ教室」で児童と選手と一緒に走るプログラムを実施しました。交流の最後では、「神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会」に向けた知事による激励会を実施し、記念品の交換や記念撮影を実施しました。なお、「神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会」においてオランダ代表チームは、金メダル3個、銀メダル3個、銅メダル5個という成績を残されました。 ・知事のドイッ・オランダ訪問 5/31-6/3 ロッテルダム市では市が主催している、障害のある方もない方も一緒にスポーツに参加する環境づくりについて伺うとともに、実際に連携した取組を行っている卓球クラブで活動の様子を見学し、スポーツ振興において行政と関連団体が役割を分担しながら連携していくことの重要性を確認しました。また、オランダ陸上競技連盟を訪問した際は、「東京2020オリンピック・パラリンピック」や「神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会」の事前キャンプの千葉県での受け入れに対する謝辞が述べられるとともに、「東京2025世界陸上競技選手権大会」に際しても、千葉県内で事前キャンプを行いたい旨の意向が示されました。	・事前キャンプ 5/8から5/15にかけてオランダ代表チーム（選手8名、スタッフ4名）を受け入れ、5/12に交流事業を実施しました。交流では、オランダ代表チームの練習の見学や、「かけっこ教室」で児童と選手と一緒に走るプログラムを実施しました。交流の最後では、「神戸 2024 世界パラ陸上競技選手権大会」に向けた知事による激励会を実施し、記念品の交換や記念撮影を実施しました。なお、「神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会」においてオランダ代表チームは、金メダル3個、銀メダル3個、銅メダル5個という成績を残されました。 ・知事のドイッ・オランダ訪問 5/31-6/3 ロッテルダム市では市が主催している、障害のある方もない方も一緒にスポーツに参加する環境づくりについて伺うとともに、実際に連携した取組を行っている卓球クラブで活動の様子を見学し、スポーツ振興において行政と関連団体が役割を分担しながら連携していくことの重要性を確認しました。また、オランダ陸上競技連盟を訪問した際は、「東京2020オリンピック・パラリンピック」や「神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会」の事前キャンプの千葉県での受け入れに対する謝辞が述べられるとともに、「東京2025世界陸上競技選手権大会」に際しても、千葉県内で事前キャンプを行いたい旨の意向が示されました。	9月に開催される「東京2025世界陸上競技選手権大会」に向けてオランダ代表チームが県内で事前キャンプを実施予定。県民との交流事業も実施予定。
②スポーツの効果を知る	7月中旬にドイッ・デュッセルドルフ市で開催されたテニスの国際交流試合に千葉県テニス協会から選手4名が派遣されたほか、7月下旬から8月上旬にかけて、旭市等を会場に、千葉県卓球連盟とドイッ・デュッセルドルフ市の間で卓球交流が行われました。また、令和6年1月上旬に台湾・桃園市で行われた卓球交流に千葉県卓球連盟が選手12名が参加しました。参加者たちは、技術の向上はもちろん、海外の選手とコミュニケーションを図ることで、スポーツの効果（国際理解・国際交流）を体感しました。	千葉県卓球連盟、千葉県テニス協会による事業実施の調整及び支援を行う。	ドイッ・デュッセルドルフ市におけるテニスの国際交流試合については、今年度は千葉県テニス協会からの選手派遣を見送りました。また、9月上旬から中旬にかけて千葉県卓球連盟とドイッ・デュッセルドルフ市の間で卓球交流が行われました。参加者たちは、技術の向上はもちろん、海外の選手とコミュニケーションを図ることで、スポーツの効果（国際理解・国際交流）を体感しました。また、令和7年3月には千葉県内で、台湾・桃園市と千葉県卓球連盟との卓球交流が行われる予定です。ちばアクアラインマラソンについては、桃園市及び高雄市から選手の参加がありました（台北市は不参加）。	・千葉県卓球連盟、千葉県テニス協会による事業実施の調整及び支援を行う。 ・7月下旬にドイッ・デュッセルドルフ市で開催予定の国際交流試合に千葉県テニス協会が選手の派遣を検討中。
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	一宮町に加え、旭市や九十九里町、南房総市など、外房地域において、県内外の都市部に在住する、サーフィン初心者親子や若者をターゲットに、7月下旬から9月下旬にかけて、6か所において、計14日間、サーフィン体験会とサーフ文化を発信するイベントを開催しました。初心者向けのサーフィン体験会と、移住サーファーとの交流会、海に親しむワークショップをセットにした、1日のイベントに参加いただき、スポーツの価値（サーフィンの楽しさ）、効果（達成感、爽快感）、行い方（ルールや技術）を伝えることができました。	・サーフィン体験会の実施 ・サーフ文化発信イベントの実施 (計12回、参加者241名)	一宮町に加え、旭市や勝浦市、鴨川市など、外房9市町において、県内外の都市部に在住する、サーフィン初心者親子や若者をターゲットに、7月下旬から10月上旬にかけて、計12日間、サーフィン体験会とサーフ文化を発信するイベントを開催しました。初心者向けのサーフィン体験会、房総グルメランチ、移住サーファーとの交流会、海に親しむワークショップをセットにした、1日のイベントに参加いただき、スポーツの価値（サーフィンの楽しさ）、効果（達成感、爽快感）、行い方（ルールや技術）を伝えるとともに、外房地域の魅力を体感いただくことができました。	・サーフィン体験会の実施 ・サーフ文化発信イベントの実施 (計12回、参加者240名)
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	「アーバンスポーツ」、「ユニバーサルスポーツ」、「バーチャルスポーツ」を「新たなスポーツ」ととらえ、普及促進を図るため、体験会等を開催しました。 また、これまで、特に屋外での運動が難しかった人にとって運動に親しむ契機となるよう、昨年度作成したバーチャルサイクリングのオリジナルコースを用いた県主催の大会を実施し、バーチャルサイクリングの普及や本県の魅力発信を図ることで、スポーツの価値（新たなスポーツの楽しさ）、効果（爽快感や達成感）、行い方（ルールや技術、楽しみ方）を伝えることができました。	・「新たなスポーツ」普及促進協議会の開催 ・アーバンスポーツ体験会の開催 ・ユニバーサルスポーツの出張体験会の開催 ・バーチャルスポーツ体験会の開催 ・スポーツジム及び高齢者施設、特別支援学校等の施設へバーチャルサイクリングの機材一式を設置 ・県HP、SNS等を利用した情報発信	「アーバンスポーツ」、「ユニバーサルスポーツ」、「バーチャルスポーツ」を「新たなスポーツ」ととらえ、普及促進に取り組むため、体験会等を開催しました。 アーバンスポーツについては、初めてスポーツクライミングの体験会を開催し、複数競技が体験できるイベントを実施しました。ユニバーサルスポーツについても出張体験会の他、商業施設でモックやポッチャの体験会を実施し、幅広い年代の方に種目の魅力を伝えることができました。 バーチャルサイクリングについては、商業施設での体験会の他、スポーツジムや高齢者施設、特別支援学校へ機材一式を設置し、障害等による外出困難者や仕事等を理由に運動不足となっている方々に対し、主に運動機会の提供を目的に取り組んでいます。	・「新たなスポーツ」普及促進協議会の開催 ・県内でアーバンスポーツフェスタの開催（2回程度） ・ユニバーサルスポーツ体験会の開催 ・スポーツジムや高齢者施設、特別支援学校等にバーチャルサイクリングの機材一式を設置し、体験期間を設ける ・バーチャルサイクリング体験会の開催 ・県HP、SNS等を利用した情報発信